

彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業

成 果 報 告 書

(2019 年度)

彦根長浜地域連携協議会

目 次

1. はじめに（協議会長挨拶）	・ ・ ・ ・ P. 1
2. 彦根長浜地域連携プラットフォーム事業概要	・ ・ ・ ・ P. 2
3. 2019 年度 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 5
4. ワーキンググループの取組	・ ・ ・ ・ P. 14
(1) ワーキンググループ A	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 14
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 16
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 38
(2) ワーキンググループ B	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 40
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 42
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 72
(3) ワーキンググループ C	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 74
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 76
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 107
(4) ワーキンググループ D	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 109
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 110
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 113
(5) 協議会	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 114
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 115
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 119
(6) 協賛事業	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 120
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 121
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 135
5. まとめ	
(1) 2019 年度 全体総括	・ ・ ・ ・ P. 136
(2) コーディネーターによる検証と今後の提言	・ ・ ・ ・ P. 139
(3) 外部評価委員による評価と提言	・ ・ ・ ・ P. 141

1. はじめに

協議会長挨拶

基本理念

“SDGs を活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出”

現在、日本においては“まち・ひと・しごと創生”に代表されるように、地方の活性化が大きな課題となっています。少子高齢化が進む中、彦根・長浜地域においても、地域社会を活性化し、豊かに働き生活できる住みよい魅力と活気のある地域社会を創出するという大きな課題への取組は避けて通ることができません。特に、大学にとりましては、これからの 18 歳人口の急速な減少により、各大学の理想とする教育・研究を行うことが難しくなるだけでなく、その存続自体も危ぶまれており、地域の皆様との協業を通じてこれに対応していくことが喫緊の課題となっています。

このような背景の中で、多くの皆様のご協力を得て、彦根・長浜地域内の大学と自治体および産業界が力を合わせてこれらの課題に取り組むためのプラットフォームを形成することになりました。本趣旨をご理解の上、快く参画していただきました大学、自治体、産業界等の皆様に心から御礼申し上げます。

このプラットフォームの意義は、地域の発展に向けて、大学、短期大学、自治体、産業界等が、持続可能な開発目標である SDGs を活用し、力を合わせてそれぞれの得意分野で協働して取り組むことにあります。そして、その成果として有能な人材を養成し、地域で活躍してもらうことで豊かに働き生活できる、魅力と活気ある地域社会を創出することにあります。この目的を達成するために必要な分野と課題および目標を取り上げ、2019 年度から 6 年間にわたる中長期計画を作成しました。中長期計画に基づき、目的達成に向け、プラットフォームで取り組んだ最初の成果が今回の報告書です。今後とも、地域の皆様方のご理解とご協力を頂ければ幸いに存じます。

本プラットフォームの更なる充実・展開により彦根・長浜地域の魅力が増し、活気ある社会へさらなる進展が得られることを祈念して挨拶いたします。

彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業
連携協議会長 蔡 晃植



2. 彦根長浜地域連携プラットフォーム事業概要

(1) 彦根長浜地域連携プラットフォーム事業の設立

滋賀県内の彦根・長浜地域においては、個々の大学・短期大学と自治体・産業界等との間で様々な連携・協働が試みられ、一定の成果を上げている。今後さらに彦根・長浜地域の活性化のためには、これまでの連携・協働をより発展させ、社会の持続可能な開発目標であるSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を活用しながら、これまで以上に自治体や産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開することに大学・短期大学・自治体・産業界等が合意をしたことから地域プラットフォーム事業を形成する準備が進められてきた。

2018年9月にSDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標とする、彦根・長浜地域の滋賀大学・滋賀県立大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀県・彦根市・彦根商工会議所・長浜市・長浜商工会議所の10機関による彦根長浜地域連携協議会（以下、「協議会」という）が組織された。そして協議会の事業実施に向け、文部科学省 2018年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ5に申請を行い採択されることとなった。

そこで本年度、協議会による事業として「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業（以下、「プラットフォーム事業」という）」が展開していった。

プラットフォーム事業では、大学改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、特徴や強みを生かした地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むことを柱としている。そのため地域内における高等教育の充実・発展の方向性を包括的に示すための中長期計画を策定して事業活動を行っている。

(2) 彦根長浜地域連携プラットフォーム事業の特色

① 目指すべき将来像の設定

プラットフォーム事業では、彦根・長浜地域の課題を共有した上で、以下の4つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGsを活用することで、豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を目指している。

- 1) 自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- 2) 誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- 3) 地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- 4) 若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

これらはそれぞれ別個の独立したものでなく、本事業が設定する課題分野の個々の取組が総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像と捉えている。

② 運営体制

プラットフォーム事業を円滑に進めるにあたり、協議会を運営する事務局を置き、中長期

計画の根幹に据えている 4 つの将来像の実現にむけ、以下 3 つの事業に対応したワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置している。

- 1) ワーキンググループ A (WG-A)：産業振興に向けた産官学連携事業
- 2) ワーキンググループ B (WG-B)：地域コミュニティの活性化事業
- 3) ワーキンググループ C (WG-C)：地域を担う次世代人材の育成事業

さらに、以上の 3 つの事業の進捗状況を管理し、全体の円滑な事業活動を支援するため WG「事業管理 (WG-D)」を置くことにする。

③ 具体的な目標設定

プラットフォーム事業で行う WG の活動に対して、事業最終年度までに達成を目指す達成目標 (KGI : Key Goal Indicator) 及び KGI を達成するために年度ごと 1 年間の取組成果として目指すべき活動指標 (KPI : Key Performance Indicator) を定め、年度単位での活動の進捗状況を評価している。具体的な達成目標 (KGI) 及び活動指標 (KPI) は以下の通りとなる。

【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

＜ 達成目標 (KGI) ＞

- 1) 産官学共同研究をきっかけとした 3 件以上の事業化または商品化を行う。
- 2) 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。

＜ 活動指標 (KPI) ＞

- 1) 産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
- 2) 地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

＜ 達成目標 (KGI) ＞

- 1) 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年度比で 20%増加させる。
- 2) 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。

＜ 活動指標 (KPI) ＞

- 1) 地域住民向けの公開講座の参加者を、最終年度までに 2018 年度比で 100 名以上増加させる。
- 2) 地域住民向け健康支援イベントを、最終年度までに 5 件以上行う。

- 3) 産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度まで 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる。
- 4) びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う。
- 5) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度を測定する。

【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

＜ 達成目標（KGI） ＞

- 1) 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。
- 2) 彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上増加する。

＜ 活動指標（KPI） ＞

- 1) SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

④ SDGs の活用

SDGs の枠組みをプラットフォーム事業で活用する意義を以下のように考えている。

まず、次世代の社会を担う大学生を抱える高等教育機関において、SDGs の枠組みを念頭に置いて取り組むことは、地域課題を解決するために、複眼的な視野を持つ『人材育成』の機会創出であり、産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』となりうる。

また、SDGs に関連する取組において、異なる課題の解決を目指した複数の取組が、実際はどちらも 1 つの目標に関わっていることがしばしばあり、一見すると別々に解決すればよいと考えられてきた課題の中に、実は共通する課題が存在していることに気付くきっかけになる。根本的な課題が同じであれば、複数の取組間で解決策を共有することで、課題解決に向けた取組をスピードアップできる可能性が出てくる。そのため、これまで特色ある教育・研究を行い、強みを活かしながら地域課題に取り組んできた各大学が、地域課題に対する解決策を共有することで、『課題解決のスピードアップ』が期待でき、地域課題の解決の可能性を高めることができる。

さらに、SDGs は理解し易く、多くの人の参画を促し易いため、地域課題の解決に取り組む団体が、類似の課題解決を目指す仲間を容易に見つけ出す目印とすることを可能にする。地域課題を解決するために SDGs を活用することで、産官学連携に携わる人々を増やし、関係者との結び付きを強くする『磁石』の役割が期待できる。

以上のことから、プラットフォーム事業において SDGs を活用することは、1) 地域課題の解決を担う『複眼的な視野を持つ人材育成』、2) 産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』、3) 地域課題の解決に向けた『課題解決のスピードアップ』、4) 産官学連携基盤を強化する『磁石』としての効果が期待でき、プラットフォーム事業が掲げる「豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出」に向けたエンジンとなりうるのである。

⑤ 評価体制及び広報活動

プラットフォーム事業の評価については、各 WG が取り組む事業の成果が活動指標 (KPI) を達成できているかを自己評価するだけでなく、大学・自治体・産業界などで活躍されている方々による外部評価を行い、次年度の取組に反映するようになっている。

また、プラットフォーム事業の取組については、協議会 HP による情報発信を適時行うとともに、年 1 回、地域住民向けの成果発表会を実施することで地域とのコミュニケーションをとることとなっている。

3. 2019 年度 活動概要

(1) 全体の活動概要

2019 年 2 月に協議会加盟校である 3 私立大学（滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学）が、文科省 私立大学等改革総合支援事業・タイプ 5 に採択され、その後プラットフォーム事業が設定する課題分野に対する中長期計画を推進するための具体的な事業計画を各 WG で決定し、協議会での承認後、事業活動を行ってきた。

各 WG の事業計画は、地域課題の解決に向けた具体的な活動を設定しており、SDGs を活用しながら高等教育機関・地方自治体・産業界等が連携し、彦根・長浜地域の発展に寄与する活動となっている。

また、各 WG の活動がスムーズに進むよう加盟する 3 私立大学が WG のリーダー校となり、リーダー校を中心とした WG 内での情報共有を図りながら事業活動を行ってきた。WG 間の枠組みを超えて調整が必要な事に対処する場合、定期的にリーダー校会議を開催し、協議会承認のもとで活動を行った。

WG-A から WG-C のすべての活動は、事業最終年度までに達成を目指す具体的な達成目標 (KGI) 及び本年度の事業取組で目指すべき活動指標 (KPI) を定めている。本年度行った事業の取組が活動指標 (KPI) を達成できているかどうかの自己評価を各 WG で行った。事業の進捗等を管理する WG-D では、各事業活動の進捗状況の把握・調整の他、協議会ホームページの作成・運営、成果報告会及び成果発表会の開催準備等を行っている。外部評価委員会では、取組事業の質の向上に努めるために、外部評価委員からの意見を取り入れ、事業に関する検証を実施した。

本年度は 43 の事業に 136 の取組を計画し、2020 年 2 月末日までに 129 の取組を実施した（実施率 94.8%）。

(2) 協議会、事務局、WG 等の活動概要

① 【協議会】

2018 年度に締結された彦根長浜地域連携協議会が中長期計画で実施する取組事業の円滑な運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が集まり、事業連携協力、基本方針の策定及び中長期計画の立案・実施、相互連携機関の交流などについて協議する連携協議会を定期的に開催する他、会計監査などを行う。

1) 連携協議会の開催

2019 年度は 5 回開催したが、協議会員の出席率は平均 76%（出席者合計 57/定数合計 75）であった。協議会では、2019 年度事業計画・予算化計画、会計処理規程など、事業計画の係る KGI・KPI の決定、個人情報保護規程、監査規程、外部評価委員及び監事の選定などを承認した。

2) 会計監査

連携協議会監査規程に基づき、取組事業の適切な業務の執行及び予算執行が行われていたかを確認するため、監事による業務監査及び会計監査を行う。

② 【事務局】

プラットフォーム事業の事務を処理するため、協議会等の全体調整、会計処理等の経理の他、外部評価委員会を運営するなど、事業運営に関し必要な処理を行った。

1) 事務局会議の開催

2) 外部評価委員会の運営

2019 年度に実施した事業ごとの自己評価を含めた成果報告書にもとづき、自治体・産業界などから選定された委員による外部評価委員会を開催し、事業評価を受けた。

③ 【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

「産業振興に向けた産官学連携事業」を担当し、産官学連携事業、インターンシップ・採用活動支援事業、UIJ ターン推進事業に取り組んだ。

具体的な活動として、産官学連携事業は 4 つの活動を行い、インターンシップ・採用活動支援事業は 6 つの活動を行い、UIJ ターン推進事業は 2 つの活動を行った。

④ 【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

「地域コミュニティの活性化事業」を担当し、生涯学習拠点整備事業、地域住民に向けた健康増進支援事業、国際交流促進・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業、ネットワーク推進事業に取り組んだ。

具体的な活動として、生涯学習拠点整備事業は 4 つ行い、地域住民に向けた健康増進支援事業は 4 つ行い、国際交流促進・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業は 5 つ行い、ネットワーク推進事業は 2 つ行った。

⑤ 【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

「地域を担う次世代人材の育成」を担当し、SDGs をテーマにした共同講義事業、単位互換事業、幼小中高校生への学習支援事業、地域内進学促進事業、地域人材活性化事業、共

同 FD・SD 事業に取り組んだ。

具体的な活動として、SDGs をテーマにした共同講義事業・単位互換事業は 3 つ行い、幼小中高校生への学習支援事業・地域内進学促進事業は 3 つ行い、地域人材活性化事業は 5 つ行い、共同 FD・SD 事業は 5 つ行った。

⑥ 【WG-D：事業管理】

産業振興に向けた産官学連携（WG-A）、地域コミュニティの活性化（WG-B）、地域を担う次世代人材の育成（WG-C）、それぞれのワーキンググループ全体に関わる事業管理及び情報発信を担った。各 WG の事業進捗状況の確認、協議会ホームページの作成・運営、成果報告会・成果発表会の開催準備などを実施した。

⑦ 【協賛事業】

各連携機関が独自の事業計画及び予算にもとづき実施された事業で、次年度以降、プラットフォーム事業として取り組む可能性があるものを協賛事業として協議会が承認した。協賛事業に関しては、各連携機関と特定の地域・団体との結びつきが強い事業もあるため、次年度以降のプラットフォーム事業として実施するかの再検討を行う予定である。

（3）活動指標（KPI）に対する成果

① 【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) 産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
- 2) 地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

＜活動成果＞

- 1) 1 件の産学共同研究（養殖ビワマス飼料開発）の支援を行った。本共同研究はビジネスプランコンテストで高評価を得て、特許出願も行ったことで、今後も商品化へ向けた継続支援を行っていく。
- 2) インターンシップ関連の企業交流会（15 事業所が参加）及び学生対象のインターンシップ&業界研究フェア（34 事業所に 57 名の学生が参加）を実施し、KPI に対する参加企業数と参加学生数の目標達成に目途がついた。
- 3) UIJ ターンの実態に関する検討会を開催し、連携機関の他、県内の 2 自治体が参加した。各自治体から対象となる人数を把握することが可能となったことで、今後は、県内自治体に協力を広げることも検討する。

②【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) 地域住民向けの公開講座の参加者を、最終年度までに 2018 年度比で 100 名以上増加させる。
- 2) 地域住民向け健康支援イベントを、最終年度までに 5 件以上行う。
- 3) 産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる。
- 4) びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う。
- 5) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

＜活動成果＞

- 1) 公開講座 19 講座と専門講座 1 講座を実施し、参加者は延べ 532 名で前年より 91 名の増加となっており、初年度から目標に近い数値まで達している。
- 2) 4 件の事業を実施した。健康イベントでは、幅広い年代の地域住民が自主的に活動した他、「認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト」には、多様なメンバーが参加した。
- 3) 137 名の学生がまちづくり活動に参加した。まちづくり支援事業として実施した「学生のプロジェクト」や「彦根市リーダー研修」などでは自治体や地域と連携して活動を行うことができた。
- 4) 3 日間にわたり 4 件の学生発表を実施した。次年度はびわ湖環境ビジネスメッセの開催が中止となるため、活動指標の再考が必要となる。
- 5) 「彦根長浜地域連携プラットフォーム・セミナー大会&交流会」は自治体・産業界・各種団体と協働で実施した。「学生の地域貢献活動報告会&交流会」では、連携 5 大学 12 プロジェクトの発表と 4 プロジェクトのポスター展示を実施した。

③【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

＜ 活動成果 ＞

- 1) 既存の科目をプラットフォーム事業として実施したが、次年度以降は新規科目の立ち上げの必要性を検討していく。
- 2) 1 件の事業を実施し、2018 年度比で 11 名の増加であった。参加学生が大学により偏りがあったため、参加学生の枠を広げていくことを検討していく。
- 3) 次年度から小学校で必修となるプログラミング教育に伴い、「Scratch」を使用した「こどもプログラミング教室」や、彦根市と近隣の不登校の実態についての研究会「不登校プロジェクト」を開催することができた。
- 4) 高校生向けの大学説明会を実施するにあたっての情報収集や実施方法等の意見交換会議を開催した。次年度は共同の大学説明会等の実施につながる実行委員会や運営委員会等の立ち上げを行う。
- 5) 目標の 5 講座を上回る 6 講座を実施することができた。次年度も継続して開講する他、講座数の増加も検討していく。
- 6) 研修を 3 回実施した他、研修以外にシンポジウム及び懇話会をそれぞれ 1 回実施することができた。次年度以降は、「大学の質の向上及び教職員の質の向上」を測る方法など明確な尺度を設けたアンケートを実施できるようにしていく。

以上の活動成果から、活動指標 (KPI) に対する自己評価を各ワーキンググループでは次ページ以下の表のように評価している。なお、自己評価の基準は、「A 評価…目標達成できた」、「B 評価…目標達成に向けての課題がある」、「C 評価…目標達成は困難である」である。

KPI 自己評価表

WG-A

取組事業	活動指標（KPI）	事業活動状況	自己評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	産官学連携を推進することを目的に、産業界に向けた研究紹介ハンドブックの作成、大学間共同研究を推進するための研究設備の共同利用の検討、大学発ベンチャー企業設立を目指した産学共同研究の支援、異業種交流研究会の開催を実施した。 本年度、KPI について、産学共同研究が 1 件実現し、産官学共同研究の推進に向けた連携体制の整備ができたが、細かな課題が見えたことから自己評価は「B」とする。	B
インターンシップ・採用活動支援事業	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。	地域内企業への新卒就職を促進することを目的にインターンシッププログラム開発、インターンシップ&業界研究フェア+SDGs、新規学卒者の就職・採用活動支援を実施した。 本年度、インターンシップ活性化事業として、総計 49 社の事業所、57 名の学生が参加したので、KPI の達成に対する自己評価は「A」とする。このような KPI の進捗状況から、次年度には数値の上方修正を検討する必要がある。	A
UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	地域内への UIJ ターン推奨事業として、就職・転職活動の人数把握に関する検討会、就職・転職活動者への情報発信・発信媒体に関する検討会を実施した。 本年度、KPI の成果は得られていないが、第一に必要とされた UIJ ターン者の人数把握方法が共有化された。しかし、UIJ ターンの情報発信に対する課題が残ったので、自己評価は「B」とする。	B

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる (延べ人数)	本年度は、公開講座 19 講座と専門講座 1 講座を実施し、参加者は延べ 532 名であった。2018 年度比で 91 名増加しており、初年度から目標に近い数値まで達している。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う	本年度は、4 件のイベントを実施することができた。「健康づくりリーダー養成講座 (初級・中級)」「健康ウォーキングイベント」「認知症とともに生きるために (セミナー・ワークショップ)」「健康 IoT リーダー養成講座」。次年度も継続して実施したい。	A
国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う	本年度は、137 名の学生がまちづくり活動に参加した。この事業は新規事業のため、2018 年度比で 137 名の増加となり、目標を達成できた。次年度以降も継続して実施していきたい。 「ビジネスメッセ」は、学生のブース発表が 4 件できたことは成果であったが、次年度は事業が中止になるため、活動指標の再考が必要である	A
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する	「プラットフォーム・セミナー大会&交流会」と「学生の地域貢献活動報告会&交流会」の 2 回開催した。自治体・産業界・各種団体と協働で実施することができたが、活動団体の満足度調査を実施することができなかった。次年度からは実施していきたい。	B

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
・SDGs をテーマとした共同講義事業 ・単位互換事業	・SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	・SDGs 単位互換科目「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション～近江の暮らしとなりわい～」を3日間実施した。 ・キャンパス SDGs びわ湖大会「キャンパス SDGs びわ湖大会～地域と共に育む新しい価値の創造～」を開催した。 ・単位互換提供科目「滋賀論」を前期集中講義として3日間の期間で開講した。	B
・幼・小・中・高校生への学習支援事業 ・地域内進学促進事業	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。	・こどもプログラミング教室を1日間実施した。 ・不登校プロジェクト（彦根市と近隣の不登校の実態についての研究会及び他の地域の取組の視察、研修会）を実施した。 ・地域内進学促進意見・情報交換会を1回実施した。	B
・地域人材活性化支援事業	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。	・SDGs 地域人材育成事業としてSDGs 活用型課題解決ワークショップ等を3回実施した。 ・キャリアアップ講座「子どものプレパレーション検討会」を3回実施した。 ・学びのカレッジ（理論講座、実験体験講座、現地講座）を9回実施した。 ・本を紹介してみませんか 2019～POP・本の帯コンクール～で作品を約2か月間募集し、コンクールを1回実施した。 ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀を毎月第3火曜日に例会として実施した。また講演会を1回開催した。	A

・共同 FD/SD 事業	・共同 FD/SD 研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。	・共同 FD 研修会を「互恵的關係にもとづく大学の授業デザイン」をテーマに実施した。 ・共同 FD 研修会を「現象学的に人間を理解する」をテーマに実施した。 ・共同 SD 研修会を「大学と地域との関わり方について～西南まちづくりラボを例に～」をテーマに実施した。 ・SDG s シンポジウムを「SDGs を利用した地域の活性化」をテーマに実施した。 ・初等教育懇話会を実施した。	B
--------------	--	---	---

各 WG の自己評価の判断につながった具体的な活動状況については、次ページからの「4. ワーキンググループの取組」において詳細に記載してあるため、個別活動の活動状況についてはそちらを確認していただきたい。

4. ワーキンググループの取組

(1) ワーキンググループ A

① 活動概要

ワーキンググループ A は「産業振興に向けた産官学連携事業」を担当しており、3 つの取組「産官学連携事業」、「インターンシップ・採用活動支援事業」、「UIJ ターン推進事業」を通して彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現を目指している。そのために、最終年度（2023 年度）までに 2 つの最終目標を達成することを掲げた。

ワーキンググループ A の達成目標

- ・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価）
- ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）

本年度は、上の 3 つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

「産官学連携事業」における活動指標（KPI）

- ・産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。

「インターンシップ・採用活動支援事業」における活動指標（KPI）

- ・地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。

「UIJ ターン推進事業」における活動指標（KPI）

- ・UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

「産官学連携事業」では、産官学の連携体制の基盤を固めると共に連携ネットワークを拡大することを意識し、大学間の共同研究を推進することを目的として活動した。産学・官学の共同研究のきっかけを作るために、連携大学の研究活動等を平易な言葉で紹介するハンドブックを作成し、地域産業界に向けて配布した。そして、大学間の共同研究を促進するために、連携大学の研究施設設備を共有するネットワーク構築について協議し、問題点を認識し合った。また、地域産業界との交流促進と産官学連携のきっかけの場として、異業種交流研究会との合同講演会を開催し、意見交換を行った。産官学連携を通じた事業化・商品化に向け、大学と地域産業界が連携した、大学発ベンチャーを視野に入れている研究グループを支援している。その研究成果がビジネスプランコンテストでの最優秀賞受賞等の結果となり、産官学連携による商品化・事業化の実現に近づけている。

「インターンシップ・採用活動支援事業」では、連携大学の学生が地域内企業への就職を促進することを目的として活動した。まず地域内企業と学生がそれぞれ抱えるインターンシップに関する課題共有のために、プラットフォーム連携機関と地域内企業が意見交換会を実施し、地域課題の共有と課題解決策を検討した。そして、連携大学の学生に対して就業

観を高めるために、地域内企業によるインターンシップの紹介と業界の説明を組み合わせた合同フェアを実施した。また、新規学卒者に対して、地域内企業紹介パンフレットの配布、就職対策講座・会社説明会のためのバスツアー、地域内企業経営者との面談会を実施した。

「UIJ ターン推進事業」では、本プラットフォームとして自治体が行う UIJ ターン推奨事業の活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援することを目的として活動した。まず地域における UIJ ターンの実態を共有し、UIJ ターンによる就職・転職者の人数把握や UIJ ターンの情報発信に関する方法を検討した。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標（KPI）	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	3・8・9・11・12
取組事業 No.	A-1-1（地域産業界に向けた研究紹介）
2019 年度の具体的な活動	産官学共同研究のきっかけを作るため、プラットフォーム連携大学がもつ研究ノウハウ等を平易な表現で紹介するハンドブックを作成し、地域産業界に配布することを試みた。 ハンドブックの発行に向けて、準備会議で本取組の方針を確認し（2019 年 7 月）、その後、構成内容等をアンケート形式にて意見調整し（10 月）、その詳細をまとめた（11 月）。ハンドブックは毎年 1 冊発行し、基本的に各大学 3 名の執筆者に原稿を依頼すること、各大学の研究者（教育者）及び知財関係一覧を作成することを決定した。12 月にハンドブックの様式を決定し、その原稿テンプレートを各大学の執筆者に送付し、2020 年 1 月に執筆原稿を回収した。2 月 21 日に 2,000 部発行し、各連携機関へ納品した。3 月にはハンドブック執筆者による地域産業界への研究紹介イベントと研究者交流会の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対応により中止した。
実績（成果）	本年度は、研究紹介ハンドブックを作成・配布することができた。本年度中に（3 月中旬を予定）ハンドブック執筆者による地域産業界への情報発信イベントを実施し、産官学連携研究のきっかけ作りに活かす。また、執筆者が集うことにより大学間

	共同研究の促進にもつながることを期待する。 研究紹介ハンドブックの方針とひな型ができたことにより、次年度からは早期に研究紹介ハンドブックの執筆依頼及び研究紹介イベントを実施できる。
改善策 (次年度への取組)	研究紹介ハンドブックの内容を研究者データベースとしてインターネット上へ順次公開する予定であったが、本連携協議会ホームページの立ち上げが遅れたために実現できなかった。次年度は、できる限り早い時期に、紙媒体と同様に電子媒体でも本プラットフォーム連携機関の研究活動を発信し、広く産業界へ周知させるようにしたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標（KPI）	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8・9・12
取組事業 No.	A-1-2（大学間共同研究を推進するための研究設備データベースの構築と共同利用の促進）
2019 年度の具体的な活動	プラットフォーム連携大学間の共同研究を推進するために、連携大学の研究設備の情報共有と共同利用ができる仕組み作りを試みた。 共同利用システムの構築に向けて、準備会議で本取組の方針を確認し（2019 年 7 月）、その後、具体的な取り決め等をアンケート形式にて意見集約し（10 月）、その内容をまとめた（11 月）。現在、研究設備の共同利用が可能な連携機関と個別に詳細を協議中である。また、3 月に予定されている産業界への研究紹介イベント（A-1-1）と同時に研究者交流会の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対応により中止した。
実績（成果）	本年度は、共同利用が可能な研究設備等について既にデータベース化できている連携機関がある一方で、研究設備等について十分に把握できていない連携機関があることがわかった。特に、自治体と産業界の公的研究施設の共同利用について踏み込んだ議論ができなかった。また、プラットフォーム連携機関間での使用料金（無料化を含む）や利用規程について詳細を決めることができなかった。
改善策	共同研究を推進するために、機関レベルだけでなく、個別研究

(次年度への取組)	室レベルで研究設備の共同利用を促進する仕組み作りを検討する必要があるだろう。プラットフォーム連携機関間では無料で利用できるようにプラットフォームから設備利用料を支払う取り決めを確立したい。今後、産業界等との共同研究を推進するためにも、連携機関が有する研究設備をプラットフォーム事業を通じて公開することが望まれる。
-----------	---

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標（KPI）	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8・9・12
取組事業 No.	A-1-3（産官学を通じた大学発のベンチャー企業の設立）
2019 年度の具体的な活動	本取組では、地域の水産業と清酒業のかかえる問題を同時に解決するために、産官学連携の共同研究を通して、酒粕を利用した低価格の魚飼料を開発し、地域産業の活性化および地域雇用の充実を促進するための大学発ベンチャー企業の設立を目指した。 ビワマス養殖業者との共同研究により、養殖ビワマスに脂を乗せる飼料を開発した。さらに、酒造業者の支援により、酒粕を原料として利用することでコストダウンを図った。本研究成果を 2019 年 7 月開催の滋賀テックプラングランプリに応募し、最終審査を受けた。現在、事業化に向けた飼料の最終改良および原料供給システムの検討を進めている。
実績（成果）	ビワマス養殖業者と酒造業者との共同研究の結果、安価で脂乗りがよいビワマス飼料を開発することに成功した。この研究成果が評価され、2019 年滋賀テックプラングランプリにて「最優秀賞」と「関西みらい銀行賞」を獲得することができた。また、本飼料に関する特許出願を行った。 本飼料を用いたビワマス養殖事業への展開を検討したが、養殖池の確保が困難で事業化には至らなかった。酒粕ばかりでなく、食品製造業で発生する産業廃棄物が飼料原料として利用で

	きるかどうかの相談を受けた。
改善策 (次年度への取組)	次年度は、地域産業界と共同で本飼料の商品化を目指す。必要であれば、企業化も検討する。 本飼料に関して、ビワマス以外の養殖魚に対する有効性を検討する。また、本プロジェクトにより得られた飼料開発を含む養殖技術コンサルティング事業も検討する。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワークを整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標（KPI）	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-4（異業種交流研究会）
2019 年度の具体的な活動	地域産業界との共同研究を推進するために、彦根異業種交流研究会「GAT 彦根」と合同講演会を開催し、プラットフォーム事業に関する意見交換を行った。 日時：2019 年 10 月 17 日（木）16:00～17:40 会場：長浜バイオ大学 内容： (1) 彦根長浜地域連携プラットフォーム事業について 向 由起夫氏（長浜バイオ大学教授） (2) 長浜バイオ大学の研究紹介 河内 浩行氏（長浜バイオ大学准教授） (3) 長浜バイオ大学内の見学
実績（成果）	本研究会への参加者は 39 名で、内訳は GAT 彦根会員 25 名、協議会関係者 14 名であった。残念ながら、長浜からの参加者がなかった。 プラットフォーム事業の主旨は産業界の方々に理解されたようで、特に GAT 彦根アドバイザーから産官学連携事業の重要さと難しさについて、過去の経験から多くのアドバイス与えていただいた。
改善策	産業界から GAT 彦根のメンバーだけが出席することとなり、こ

(次年度への取組)	の点を改善する必要がある。地域によって産業界の組織に違いがあり、異業種交流研究会という名称では地域間で対等な組織をそろえることができなかった。商工会議所基準での交流から促進する必要がある。
-----------	---

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-1（インターンシッププログラム開発）
2019 年度の具体的な活動	彦根長浜地域連携協議会と地域内の企業や事業所との交流会を通じ、地域内の企業のインターンシップに関する課題と大学生のインターンシップ、就職活動に関する課題を共有し、解決にむけて次の取り組みを実施した。 【開催日時】2019 年 11 月 6 日（火）13:00～16:00 【会場】長浜バイオ大学 大会議室 【講師】株式会社いろあわせ 代表 北川 雄士 氏 【詳細】 （１）講演「地域におけるインターンシップのあるべきカタチ」 講師の北川氏より、インターンシップの説明と昨今のトレンド、また学生側の意見を取り入れた解説をいただいた。 （２）ディスカッション「彦根長浜地域におけるインターンの理想とは？」 １グループ 5 名前後に分かれ、彦根長浜地域におけるインターンシップの理想をテーマに各連携機関や企業が持つ情報や課題を共有しながら意見交換を実施した。また、各グループの参加者を入れ替えることでグループ間の情報共有をし、最終的に各連携機関や事業所が今後取り組むべき課題解決を洗い出した。

実績（成果）	参加者等 連携機関：9 機関（12 名）外部団体：15 事業所（15 名） 参加者合計 27 名 運営：3 連携機関（5 名） 成果 本企画に対するアンケート結果（n=26、満足・やや満足・どちらでもない・やや不満・不満の 5 段階）では満足・やや満足の回答が 92.3%と非常に満足度が高く、参加した企業のニーズに合った内容であったと言える。特に大学、自治体、産業界が会することで様々な切り口での情報交換、共有することができ、各事業所の課題解決に向けた新たな発想や気づきが生まれた点を評価する声が多く見られた。
改善策 （次年度への取組）	・産官学で連携した意見交換の継続 参加者から本取組のような意見交換の場を継続して求める声が多く、次年度も意見交換の機会を提供したい。 ・開催時間の検討 今回の取組ではディスカッションの消化不良や、より議論を深めたいと、開催時間（90 分）に対して短いとの意見があった。次年度は複数開催、または連続性を持たせ、インターンシップに限らず時代や学生の動向に合わせたテーマを持たせた企画を検討したい。 ・本取り組みの検証結果 参加企業・事業所に対して本取組に参加した結果、インターンシップや採用活動の変化、またインターンシップへ参加した学生数（満足度）を検証する必要があると考えられる。参加企業への検証内容、時期についても検討し、次年度に実施をしたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-2（インターンシップ&業界研究フェア+SDGs）
2019 年度の具体的な活動	地域内企業・事業所が行うインターンシップの紹介や業界研究会を複合した合同フェアを開催することで地域内企業と連携機関大学を中心とした学生との接点を創出し、学生たちの就業観を高める目的で取り組みを実施した。 【開催日時】2019 年 12 月 21 日（土）11:30～17:00 【会場】長浜バイオ大学 体育館 【詳細】 （１）事前セミナー（11:30～12:30） 一般社団法人 SDGs 支援機構 代表理事 河上氏を講師に招き、「SDGs で考えると会社の未来が見えてくる」をテーマにした学生向けセミナーを開催した。SDGs の理解と ESG 投資を含めた就職活動への生かし方について解説していただいた。 （２）インターンシップ&業界研究フェア 彦根長浜地域を中心とした企業・事業所を招聘し、個別のブースを設け、各企業の担当者より参加学生に対して各企業のインターンシップや業界等の説明を説明会形式で実施した。
実績（成果）	<u>参加者等</u> 参加事業所：34 事業所（彦根市、長浜市、米原市中心） 参加学生：57 名（SDG s セミナー参加者 15 名）

	運営・協力：6 連携機関（13 名） <u>成果（1）</u> 学生アンケートの結果（n=26）より、約 7 割の学生が 4 社以上の企業・事業所のブースを訪問し、参考になったとの回答が 100%（大変参考になった・参考になった・あまり参考にならなかった・参考にならなかったの 4 段階）であった。このことから、本取組の目的が学生にとってとても有意義であったと考えられる。 <u>成果（2）</u> フェアでは運営側から学生への誘導を積極的に行い 1 社あたりの平均訪問者数は 5.9 名と学生と企業との接点の創出ができたと言える。
改善策 （次年度への取組）	・開催会場の検討 関西（南方）エリアからの参加者の利便性向上のために、彦根エリアでの開催も検討をしたい。 ・企業数の検討 参加学生数に対して事業所が多いとの声があり、次年度は参加事業所数の調整（20 社程度）を検討したい。 ・運営方法の見直し 説明の区切り時間の設定について事業所からの不評が見られるため、時間管理方法を検討する必要がある。 ・広報拡大の検討 参加学生の誘導のために、協議会 HP や SNS を活用した広報手段を増加したい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	A-2-3(1)（新規学卒者の就職・採用活動支援）
2019 年度の具体的な活動	（湖北地域企業と学生のマッチング事業） 28 事業所の事業内容や求人票、パンフレットが掲載された冊子を作成し、彦根長浜地域連携協議会 5 大学を含む、18 大学に配布。大学キャリアセンターを通じ、学生と企業とのマッチングを行った。
実績（成果）	【参加事業所】 28 事業所 【配布先】 ・主に滋賀、京都の大学、18 校。 （彦根長浜地域連携協議会 5 大学を含む。） ・ハローワーク長浜 ※マッチング数等については、集計していない。
改善策 （次年度への取組）	本年度は 10 月の配布となり、就職活動を終えている 4 回生が多かったため、次年度以降は時期を早めて実施する予定。また、本企画におけるマッチング状況に関する調査方法について検討する予定。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	3・11
取組事業 No.	A-2-3(2) （新規学卒者の就職・採用活動支援）
2019 年度の具体的な活動	（保育就職フェア） 本事業は 2020 年度に実施予定。「子育て支援」に課題がある地域の課題解決に向け、彦根・長浜市内で保育士・幼稚園教諭として就職を希望する当該年度卒業予定者に対して「保育就職フェア」を開催し、地域内の私立園への採用支援を行う。フェアではブース形式で私立園の紹介や採用情報の説明を行う。 なお、2019 年度までは滋賀文教短期大学において在学生対象に実施しており、本年度は 2019 年 7 月 20 日（土）に実施した。（本事業と異なるため詳細は省略） また、本事業の実施にあたり、長浜市民間保育協議会の協力は不可欠であることから、以下のとおり協力依頼を実施した。 【日 時】2020 年 1 月 6 日（月）15：30～15：45 【場 所】長浜市役所 5-D 会議室 【参加者】長浜市民間保育協議会所属園の園長等（13 園） 滋賀文教短期大学 担当教職員（2 名） 【詳 細】 長浜市民間保育協議会の定例会において 2020 年度も保育就職フェアを実施予定である旨を報告し、参加協力を依頼した。 フェアは 2020 年 7 月に実施予定であり、2021 年 3 月卒業予

	定者を対象とすること、プラットフォーム事業として開催予定である旨を伝えた。詳細な内容は 2020 年 3 月までに各園に連絡し、参加希望状況を確認することも伝えた。 ※彦根市内の各園にも同時期に案内予定。
改善策 (次年度への取組)	次年度実施予定の「保育就職フェア」は以下のとおり予定している。滋賀文教短期大学を中心に今後、引き続き計画・準備を行っていく。 【日時】2020 年 7 月（中旬の土曜日午後を予定） 【会場】彦根・長浜市内（詳細未定/人数によって調整） 【対象】・彦根・長浜市内の私立園（30 法人 43 園） ・参加園への就職を希望する 2021 年 3 月卒業予定者 【目標】20 法人、学生 50 名の参加（滋賀文教短大で 30 名） 【準備】 ・2020 年 3 月までに各園へ連絡、参加希望状況の確認を行った後、会場や実施時間等の詳細を決定する。 ・2020 年 4 月～6 月にチラシ・資料の作成、学生への周知、参加園・参加学生の把握等を行う。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-3(3)（新規学卒者の就職・採用活動支援）
具体的な活動（実施報告）	（合同就職対策直前講座＋合同説明会バスツアー） 1. 合同就職対策直前講座 日時：令和 2 年 2 月 25 日（火）10:00～16:10 場所：聖泉大学本館 3・4 階講義室 タイムスケジュール： ①10:00～10:50 第 1 部：マナー講座編 基本的なビジネスマナーを押さえて、第一印象アップをめざす。下記について、シミュレーション映像を活用して学ぶ。 ②11:00～12:00 第 2 部：マナー実践編 講座編で学んだ内容について、実践を通して習得をめざす。 ・身だしなみ（15 分）・電話（15 分）・メール（30 分） ③13:00～16:10 第 3 部：模擬合同説明会 ・8 企業 ・25 分/1 ターム×6 回・1 回休憩 ・学生をグループ分け（5 名前後）し、グループごとに指定された企業の説明を聞いて回る。 ④16:10～16:30 第 4 部：振り返り講座 2. 合同説明会バスツアー マイナビ就職 EXPO（合同会社説明会）に参加するためのバ

	スツアーを企画したが、新型コロナウイルス感染症への対応により中止した。 日時：令和2年3月1日（日）11:00～17:30（中止） 場所：インテックス大阪 備考：会場まで大型観光バスを2ルート設定して運行する。 ①JR 田村駅—米原駅—彦根駅—インテックス大阪 ②聖泉大学—JR 稲枝駅—インテックス大阪
実績（成果）	1）合同就職対策講座（2/25 実施） 【参加事業所】8 社 【参加学生】46 名（2 大学） 【運営・協力】2 機関（3 名） 2）合同説明会バスツアー バスツアーによる参加を予定していた合同説明会「マイナビ EXPO」が感染症対策の観点から開催中止となったため、本企画も中止とすることとなった。
改善策 （次年度への取組）	1）合同就職対策講座について 連携の5大学からの参加を見込んでいたが、結果、2大学の学生からの参加であった。各連携大学でも同様の対策講座も組みれていたことも要因であると考えられるため、次年度はより多くの学生が見込めるように各連携大学との企画調整にも取り組みたい。 2）合同説明会バスツアーについて 今年度は特殊事情により中止となったが、学生からの合同説明会へのバスツアーの要望は多くみられるため、次年度についても同様に検討し企画をしていきたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用活動支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	A-2-3(4)（新規学卒者の就職・採用活動支援）
具体的な活動（実施報告）	（学生と地域経営者との面談会+合同説明会バスツアー+合同就職対策講座） 11 月 事業所説明会 実施 12 月 事業所募集 16 社の参加 2 月 17 日 業界研究会実施 ・経営者向けセミナー、学生向けセミナー ・経営者面談会 30 分×3 セッション ・模擬面接会 50 分 〔講師〕 学生向けセミナー 株式会社いろあわせ 代表取締役 北川佑士氏 企業向けセミナー 宮川バネ工業株式会社 代表取締役社長 宮川草平氏
実績（成果）	参加事業所：16 社 参加学生：28 名 【業界研究会終了後の学生へのアンケート調査の結果】 満足度 5 段階中 平均 4.52 と非常に高い満足度であった。
改善策	参加学生を増やせるよう、大学キャリアセンターとの関係の

(次年度への取組)	構築や広報等を工夫し、学生の満足度を維持できる企画を検討していきたい。
-----------	-------------------------------------

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（UIJ ターン推進事業）
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報発信網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標（KPI）	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-3-1（UIJ ターン推進事業）
2019 年度の具体的な活動	（就職・転職活動の人数把握に関する検討会） UIJ ターンによる就職・転職者の人数把握の方法や情報発信する際の対象範囲を考え、UIJ ターンに関する情報発信に役立てることを目的に、以下の取組を実施した。 【開催日時】2019 年 12 月 10 日（火）14:00～17:00 【会場】長浜バイオ大学 大会議室 【詳細】 （1）UIJ ターンの実態把握 一般社団法人 滋賀人に講演を依頼し、滋賀県への U ターン調査結果についての解説、及び、調査結果に基づく U ターンや移住に関する提言と施策提案をいただいた。 （2）人数把握方法の検討会（会議） 参加した機関における人数把握方法について報告していただいた。また、UIJ ターン情報等の発信方法について検討した。
実績（成果）	【参加者等】 連携機関：9 機関（13 名）、外部講師：1 機関（2 名）、外部団体：2 機関（3 名） <u>成果 1 外部団体の参加</u> 彦根長浜地域連携協議会の UIJ ターン推進事業であるが、滋

	賀県の支援の下、連携機関以外の滋賀県の2市町の参加という枠組みで検討会の実施ができ、多くの自治体との議論を通じ、協議会事業への取組にすることができた。 <u>成果2 人数把握方法の検討</u> 彦根長浜地域連携協議会として、KPI に沿う数値は把握できることが確認された。大学・自治体・産業界の3者の協力でUIJターンに係る人数把握や多様な取組の実施について議論を深めることができた。 <u>成果3 UIJ ターン情報の発信方法について</u> 連携大学から卒業生へのUIJ ターン等の情報発信について、同窓会組織等を通じた発信が想定されるが、同窓会組織との調整や同窓会組織の整備が必要になることが確認された。 また、同窓会以外では、大学として情報発信する方法も考えられるが、新卒入社時の企業・事業所との関係性も考えた上で慎重な対応が必要なものの、情報発信について取り組むことが確認された。
改善策 (次年度への取組)	人数把握について、把握できることが確認されたため、次年度には実際の把握と実際の調査を進めていく。 大学から卒業生等への情報発信については、各大学の事情を踏まえて、継続した検討が必要である。今後は各大学で実施可能な情報発信の方法の確立に向けての検討及び彦根長浜地域連携協議会としてできる情報発信方法の検討をすることで、具体的な情報発信を実際に進めていく。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（UIJ ターン推進事業）
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報発信網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標（KPI）	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-3-1（UIJ ターン推進事業）
2019 年度の具体的な活動	（就職・転職活動者への情報発信、冊子等の発信媒体の検討） 事業実施 2 年目以降、UIJ ターン希望者に必要とする情報発信を可能にすることを目標に実施を計画した。 12 月 10 日（火）に実施した、就職・転職活動の人数把握に関する検討会において、各連携大学における卒業生への UIJ ターンの情報発信には課題が多く継続した検討が必要なため、本計画は次年度に再検討とする。
実績（成果）	（就職・転職活動者への情報発信、冊子等の発信媒体の検討） 12 月 10 日（火）開催の UIJ ターンの実態把握と人数把握の検討会を受けて、卒業生等への情報発信については慎重に決定した方が良いという意見が出されたため、本年度は具体的な情報提供を見送ったことから、本取組による具体的な成果をあげることはできなかった。
改善策 （次年度への取組）	12 月 10 日（火）開催の UIJ ターンの実態把握と人数把握の検討会を受けて、具体的な情報発信方法とそれに合う、発信媒体の検討を進めることで、情報発信および情報発信の効果についての検討を実施したい。

③ 総評

ワーキンググループ A の達成目標である「産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化」について、本年度、事業化または商品化は実現していないが、評価年度である最終前年度（2023 年度）に向けての土台作りができた。特に、連携大学の研究紹介ハンドブックを発行し、本取組を産業界および自治体に発信したことは産学・官学の共同研究のきっかけになると期待できる。大学研究紹介ハンドブックは毎年発行・配布し、さらに本協議会ホームページ等の電子媒体を利用して拡大発信する予定である。

本年度の「産官学連携事業」における活動指標（KPI）である「産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する」について、1 件の産学共同研究（養殖ビワマス飼料開発）を支援することができた。本共同研究はビジネスプランコンテストで高評価を得て、特許出願も行ったことから、今後、商品化を視野に入れて継続支援したい。プラットフォームでの共同研究を促進するために、産学・官学ばかりでなく、大学間の共同研究を促進することも重要となる。大学間の研究設備の共有に関しては、2 大学（滋賀県立大学と長浜バイオ大学）において共通研究機器の学外利用が可能であり、まずはこれらの共同利用に関して利用料金等の詳細を調整し、早期に共同利用を実現させる。一方、個々の研究室所有の研究機器も共同利用の対象とすることが提案されたが、手続き面での課題が多く、この解決策として研究室間での共同研究を促進するための共同研究補助金制度を次年度に検討したい。

ワーキンググループ A のもう一つの達成目標である「就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する」については、最終前年度（2023 年度）に評価することになっている。

本年度は、この目標の達成に向け、「インターンシップ・採用活動支援事業」における活動指標（KPI）として「地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する」を掲げた。その成果として、インターンシップ関連の企業交流会では 15 事業所の参加があり、アンケートの満足度は 90%を超え、本交流会の継続が望まれるほどの有意義な交流となった。また、学生対象のインターンシップ&業界研究フェアでは、34 事業所と 57 名の学生が参加し、約 7 割の学生が 4 社以上、1 社あたり平均 6 人の学生が訪問する活発な取組となった。総じて、本 KPI に関しては、参加企業数及び参加学生数に目標達成の目途が立ったことから、目標数値に関して上方修正が必要となる嬉しい状況にある。一方で、新規学卒者に対する就職・採用支援では、10 月以降の取組となりその開始が遅かったこと、マッチング状況の把握が徹底されなかったことが課題として残った。

「UIJ ターン推進事業」における活動指標（KPI）として「UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する」を設定している。本年度は、UIJ ターンの実態を大学、産業界、自治体の間で共有し、各自治体から対象となる人数を把握することが可能となった。また、UIJ ターンに関する検討会に連携機関以外の県内自治体（2 機関）からの参加があったことから、本課題に関する県内自治体の協力を広げることも検討する。一方で、UIJ ターン対象者に対する地域からの（特に大学からの）情報発信手段に関して具

体策が定まらず、本年度からの実施を見送る結果となった。

次年度に向け、「産官学連携事業」は、本年度、整備してきた連携体制の中から1件でも多くの産学共同研究支援に取り組めるよう具体的な研究候補を検討する予定である。「インターンシップ・採用活動支援事業」では、インターンシップや新規学卒者の就職支援による地域内企業への就職促進の取組を継続する中で、マッチング状況や企業の採用充足率の改善を意識した取組に進化させていきたい。「UIJ ターン推進事業」では、本年度実施を見送った具体的な情報発信方法を定め、本プラットフォームとしての具体的な取組を行い、UIJに関する取組の活性化につなげていきたい。

その他、彦根・長浜地域の持続的な発展のために「経済・社会・環境」の3側面から地域活性化につながるよう各取組事業で定めたSDGsへの対応について、本年度の活動と概ね合致していると考えられるが、取組事業計画の段階から意識的に自己点検・評価していく予定である。

(2) ワーキンググループB

① 活動概要

ワーキンググループBは「地域コミュニティの活性化事業」を担当しており、4つの取組、「生涯学習拠点整備事業【取組1】」、「地域住民に向けた健康増進支援事業【取組2】」、「国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業【取組3】」、「ネットワーク推進事業【取組4】」を通して彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実を目指している。そのために、最終年度（2023年度）までに2つの最終目標を達成することを掲げた。

ワーキンググループBの達成目標

- ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 20 %増加させる。
(2023 年度評価)
- ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65 %以上を達成する。
(2023 年度評価)

本年度は、上の4つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

【取組1】生涯学習拠点整備事業における活動指標（KPI）

- ・地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018年度比で100名以上増加させる（延べ人数）

【取組2】「地域住民に向けた健康増進支援事業における活動指標（KPI）」

- ・地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに5件以上行う

【取組3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業における活動指標（KPI）

- ・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに2018年度比で延べ人数100名以上増加させる。
- ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに5件以上行う

【取組4】ネットワーク推進事業における活動指標（KPI）

- ・地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し活動の満足度等を測定する。

各取組の具体的な内容は、次のとおりである。

【取組1】生涯学習支援事業

幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座の実施として、本年度は、長浜・彦根それぞれ2会場で行った。長浜バイオ大学会場では、自然科学や人文科学等の多様なテーマを設定した「市民土曜講座」を6回、滋賀文教短期大学会場では、「大学開放講座」として、ボランティア養成講座を6回開講した。聖泉大学会場では、「公開講座」として子育て応援講座（パパママクラス・ベビーマッサージ・ベビーエクササイズ等）や認知症のシンポジウム等、7回開講した。更に滋賀県立大学会場では、「社会人専門講座」として、食べ物から探る私たちの健康をテーマとした3回シリーズの講座を開講した。

【取組2】地域住民に向けた健康増進支援事業

「健康づくりリーダー養成講座」では、運動の楽しさと安全に行うための知識を学ぶ初級編（全3回）、食や医学的分野等地域活動に活かす実践的な内容を学ぶ中級編（全4回）を実施した。「健康ウォーキングイベント」では、「自然に親しみ健康づくり・みんなで楽しくウォーキング」として、健康と環境を組み合わせた講座を行った。「認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト」は、キックオフセミナーを実施し、滋賀大学のサステイナウィークを利用し認知症ワークショップを実施した。「健康IoTを利用したきょういくときょうようの健康づくり事業」では、健康IoTリーダー養成講座として、講演会と活用方法の講座を実施する等、本年度は事業4件（長浜1件、彦根3件）を実施した。

【取組3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業

「国際親善交流音楽会」は、ドイツ人音楽家や滋賀大学オーケストラ部、滋賀文教短期大学の学生・教職員で演奏会を行った。「学生の地域貢献プロジェクト」では、認知症予防啓発プロジェクトや高齢者と看護学生の地域内交流、オレンジリボン運動を行った。

「彦根市リーダー研修」では、少年リーダー（小中学生）の中級は、防災をテーマにした活動を通して「生きる力」を育てる防災キャンプの実施、上級は「つくる力を育てる」として模擬店の企画・出店等を行った。青年リーダー（大学生）は、少年リーダー研修のサポートを行った。「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援」は、専門家の講演、事業公募、活動報告を行った。また、「ビジネスメッセ」では、びわ湖環境ビジネスメッセに、学生が参加し、4件のプロジェクトの発表を行った。

【取組4】ネットワーク推進事業

「セミナー大会&交流会」では、プラットフォームでツナガルSDGsを通して～学び・集い・語りあう～をテーマに、公開講座、講演会、取組展示、防災のつどい、生き物自然観察会、シーグラス・クラフト体験、出張フードバンクひこね、SDGsカードゲーム、イマココでツナガル交流会（意見交換会）等、全20のイベントを実施した。また、「学生の地域貢献活動報告会&交流会」では、5大学12プロジェクトの活動について分科会形式で発表を行い、全体会で連携5大学の教員による講評を行った後、プロジェクトに取組んだ学生・教員で交流会（意見交換会）を行った。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる (延べ人数)
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	B-1-1 市民土曜講座 (第 1 回～第 7 回)
2019 年度の具体的な活動	「毎回異なるテーマで地域住民に向けた公開講座を実施する」長浜バイオ大学の教員によるバイオサイエンスに関する自然科学系講座や聖泉大学、滋賀文教短期大学など連携大学による人文科学系講座、外部講師による講演を通して、地域の拠点としての大学の教育・研究を学びの場として長浜市、彦根市など近隣自治体の住民に向け、2020 年 1 月現在第 1～6 回まで実施した。 第 1 回 6 月 8 日「我々の暮らしの中のバイオサイエンス」 第 2 回 7 月 20 日「激動する世界」 第 3 回 9 月 21 日「健康なからだ作りのために知っておきたいビタミンのお話」 第 4 回 10 月 19 日「看護とストレス耐性を高める心身のリラクゼーション法」 第 5 回 11 月 16 日「いわさきちひろの歩んだ道と絵画」 第 6 回 12 月 21 日「近代日本史のなかの多様性」 第 7 回 3 月 7 日「人生 100 年時代にどう備えるか」(中止) ※新型コロナウイルス感染症への対応により中止
実績 (成果)	【参加者数】※1～6 回までの延べ 244 名 (アンケート回答者: 202 名) ○成果 1 <u>高水準な満足度</u> アンケート結果より、講座内容に関して「とても良い」「良い」と回答した参加者が 89.1%と大多数を占めた。参加者の年齢は

	60 代以上の方が 68.8%と多い反面、若年層の参加は極僅かであった。 ○<u>成果 2 参加者の定着</u> テーマ、季節、天候によって参加者数に差はあるが、複数回講座に参加する方が増えた。 また、住まい別にみると長浜市内からの参加者は 66.9%（昨年度 75.7%）と最も多く市外からの参加は 33.1%（昨年度 24.3%）と市外の受講生が増加傾向であり、広域に認知され始めている。 参考：2018 年度参加人数 169 名（4 講座）
改善策 （次年度への取組）	上記実施結果、アンケート内容を受けて ○<u>課題・改善 1 若年層の取り込み</u> 成果 1 より、高年齢層の参加は多いが、若年層の参加は極僅かである。次年度はテーマ、広報ともに若年層へのアプローチを図る。 ○<u>課題・改善 2 広域からの参加者</u> 成果 2 より、長浜市以外からの参加者を増やすべく、開催地を長浜市以外でも開催する。 ○<u>課題・改善 3 テーマ設定</u> 参加者からの意見で多かったのが下記 2 点である。 ①バイオサイエンス系の講座について詳しく学びたい。 ②日本経済、老後の生活、健康、ゲノム編集等本年度より幅広いテーマを多く実施してほしい。 ○<u>次年度に向けて</u> 2020 年度市民土曜講座はプラットフォーム事業としては実施せず課題・改善 3①に対応する形で長浜バイオ大学の 2020 年度事業計画内で実施し、課題・改善 1・2・3②については新たに本プラットフォーム新事業 WG-B「教養講座（仮称）」にて対応し実施する予定である。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業														
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実														
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。														
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）														
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。														
活動指標（KPI）	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）														
対応 SDGs 番号	3・5・11・12・17														
取組事業 No.	B-1-2 公開講座														
2019 年度の具体的な活動	「たのしい子育て応援講座」（全 6 回）および「シンポジウム」（全 2 回）を実施した。会場は彦根市の聖泉大学 ◆たのしい子育て応援講座 【ベビーマッサージ】定員 10 組 無料 90 分 ① 6 月 29 日（土）10:00～ ②11 月 23 日（土祝）13:30～ 【ベビーエクササイズ】定員 10 組 無料 90 分 ① 7 月 20 日（土）13:30～ ②2 月 8 日（土）13:30～ 【パパママクラス】定員 8 組 無料 120 分 8 月 24 日（土）13:30～ 【孫育て教室】定員 6 組 無料 120 分 2 月 29 日（土）13:30～15:30（中止） 新型コロナウイルス感染症への対応により中止 ◆シンポジウム 【多職種協働プレパレーションの実際】定員 100 名 無料 8 月 10 日（土）13:30～15:00 【認知症の人と、支える人へのケア】定員 100 名 無料 11 月 17 日（日）10:30～（10 月 12 日（土）は台風のため延期）														
実績（成果）	アンケート結果と参加人数 参加者計 160 名 （2018 年度参加者数 110 名） 2019 年度（子育て） <table><tr><th>講座</th><th>満足度</th><th>参加</th></tr><tr><td>ベビーマッサージ①</td><td>満足 86%、やや満足 14%</td><td>9 名</td></tr><tr><td>ベビーエクササイズ①</td><td>満足 75%、やや満足 25%</td><td>9 名</td></tr><tr><td>パパママクラス</td><td>満足 100%</td><td>8 名</td></tr></table>			講座	満足度	参加	ベビーマッサージ①	満足 86%、やや満足 14%	9 名	ベビーエクササイズ①	満足 75%、やや満足 25%	9 名	パパママクラス	満足 100%	8 名
講座	満足度	参加													
ベビーマッサージ①	満足 86%、やや満足 14%	9 名													
ベビーエクササイズ①	満足 75%、やや満足 25%	9 名													
パパママクラス	満足 100%	8 名													

	ベビーマッサージ②	満足 100%	5 名
	ベビーエクササイズ②	満足 100%	8 名
	孫育て教室	新型コロナウイルス感染症対応により中止	名
	2019 年度（シンポジウム）		
	講座	満足度	参加
	多職種協働プレパレーションの実際	満足 74%、やや満足 26%	48 名
	認知症の人と、支える人へのケア	満足 87%、やや満足 12% どちらでもない 1%	73 名
	<u>成果 1（参加者増）</u>		
	2018 年度参加人数 110 名に対して、45%増の 160 名となった。特に「子育て講座」は、定員充足が早かった。また「認知症の人と、支える人へのケア」については、台風のため開催日を延期したが、学園祭と同時に実施したことで、当日の参加者が増えた。		
	<u>成果 2（満足度）</u>		
	満足・やや満足を合計するといずれの講座も 100%に近い満足度となり、参加者からは好評を得ている。		
改善策 （次年度への取組）	・「子育て応援講座」は、好評であるので次年度も P F で継続して実施する。一方、当日無断欠席があり、早期申込者には、事前にメール等で確認する等の工夫が必要である。また、成長に応じて継続した子育て支援ができるよう、幼児期や児童期の講座を検討する。 ・「公開講座やシンポジウム」については、教養講座（仮称）として、多様な分野で実施することを検討する（5 大学リレー講座）。また、新しい講座は、広報活動の時間が必要なため、早めに検討・講師調整を行う必要がある。		

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる (延べ人数)
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	B-1-3 大学開放講座
2019 年度の具体的な活動	(ボランティア養成講座) 地域社会を支えるボランティア活動の参加に際し、ボランティア活動の心構えをはじめとして、実践につながる様々な講座を開講した。 テーマ①【できることから、わたしから】 定員 20 人 参加者 8 名(申込者数 9 名) 無料 【開催日時】2019 年 6 月 26 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 湖国カルチャーセンター 【講師】滋賀文教短期大学 改革準備室長 堀要 テーマ②【楽しく学ぼう人権のイロハ】 定員 20 人 参加者 5 名(申込者数 9 名) 無料 【開催日時】2019 年 7 月 31 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 湖国カルチャーセンター 【講師】滋賀文教短期大学 子ども学科 非常勤講師 今井知春 テーマ③【大人から子どもたちへ「こころに届ける読み聞かせ」】 定員 20 人 参加者 18 名(申込者数 27 名) 無料 【開催日時】2019 年 8 月 28 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 あすなろホール 【講師】滋賀文教短期大学 国文学科 講師 細田あかね テーマ④【わらべうたでひろがる音楽あそび】 定員 20 人 参加者 11 名(申込者数 15 人) 無料 【開催日時】2019 年 9 月 25 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 501 号室

	【講師】滋賀文教短期大学 子ども学科 講師 藤山あやか テーマ⑤【紙芝居 あなたも輝く演じ手に！】 定員 20 人 参加者 26 名(申込者数 32 名) 無料 【開催日時】2019 年 10 月 30 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 あすなろホール 【講師】滋賀文教短期大学 子ども学科 准教授 藤井美津子 テーマ⑥【お米を原料にした手作りおやつ】 定員 20 人 参加者 8 名(申込者数 14 名) 無料 【開催日時】2019 年 11 月 27 日 (水) 13:30～15:30 【会場】滋賀文教短期大学 湖国カルチャーセンター・調理室 【講師】滋賀文教短期大学 子ども学科 講師 橘那由美
実績 (成果)	【参加者数等】 2019 年度 募集定員各回 20 人×6 回=120 人 申込み者総数 106 人 <u>実際の受講者数 76 人(延べ人数)</u> 各回定員充足率 第 1 回 40%・第 2 回 25%・第 3 回 90% 第 4 回 55%・第 5 回 130%・第 6 回 40% 全体平均 63% (参考 2018 年度) 募集定員各回 20 人×6 回=120 人 申込み者総数 138 人 <u>実際の受講者数 116 人(延べ人数)</u> 各回定員充足率 第 1 回 110%・第 2 回 130%・第 3 回 70% 第 4 回 80%・第 5 回 115%・第 6 回 75% 全体平均 97%
改善策 (次年度への取組)	アンケート結果から、受講者の 8 割近くがすでに何らかのボランティア活動を行っている。 地域の様々なニーズに応じていくために、より実践的な講座、障がい者・高齢者・災害支援等に関するテーマの講座の新設も期待されている。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる (延べ人数)
対応 SDGs 番号	3・4・12
取組事業 No.	B-1-4 社会人専門講座
2019 年度の具体的な活動	「食べ物から探る私たちの健康」をテーマに講座を実施した。少人数 (定員 20 名) をいかした内容とし、講師と受講者との間で意見交換を活発に行ったり、実際に適量を調べる演習を実施することができた。資料代 3,000 円。 1. テーマ 「食べ物から探る私たちの健康」 2. 会場 滋賀県立大学 交流センター 研修室 3. 各回の内容 (1) 第 1 回 11 月 12 日 (火) 13:10~14:40 「滋賀で育む食の力～腸内細菌パワーの最新情報」 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科 准教授 佐野 光枝 (2) 第 2 回 11 月 12 日 (火) 14:50~16:20 「おいしく食べて健康に！～あなたの適量を調べてみましょう～」 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科 准教授 廣瀬 潤子 (3) 第 3 回 11 月 19 日 (火) 13:10~14:40 「食べ物と薬～食べ物で薬が毒に変わる～」 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科 教授 矢野 仁康
実績 (成果)	1. 参加者 各回の参加者は以下のとおり。 第 1 回 17 名、第 2 回 18 名、第 3 回 17 名 延べ 52 名 定員は 20 名 (先着順)

	※20 名のうち 2 名が講座開催日当日に辞退したため、18 名での実施となった。 2. アンケートによる総合満足度 平均 91.2 点 【参考：2018 年度】 1. テーマ 「健康寿命を延ばすコッー身体も心も朗らかにー」 2. 参加者 第 1 回（11/21） 16 名、第 2 回（11/21） 15 名、 第 3 回（11/28） 15 名 延べ 46 名 3. アンケートによる総合満足度 平均点 91.3 点
改善策 （次年度への取組）	次年度も引き続き受講者の興味のある分野の講座を実施する。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援事業)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・11
取組事業 No.	B-2-1 健康づくりリーダー養成講座
2019 年度の具体的な活動	トータルコーディネーター：聖泉大学 多胡陽介 准教授 ■初級編 (全 3 回) 運動の楽しさと安全に行うための知識を学ぶ 1) 9 月 12 日 体力測定と健康相談 (参加 12 名) 2) 10 月 30 日 ノルディック・ウォーキング (参加 13 名) 3) 12 月 4 日 運動と心の健康 (参加 13 名) <u>修了書発行 (3 回参加) 12 名。延べ参加人数 38 名</u> ■中級編 (全 4 回) 食や医学的分野等地域活動に活かす実践的な内容 1) 6 月 8 日 心と身体のリラクゼーション (参加 15 名) 2) 6 月 8 日 丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ (参加 14 名) 3) 6 月 22 日 アクティブ・シニアに必要な栄養と食事について (参加 14 名) 4) 7 月 13 日 簡単な体操やレクリエーションを作ってみよう! (参加 12 名) <u>修了書発行 (4 回参加) 12 名。延べ参加人数 55 名</u> ■上級編は、申込人数が少ないため中止。
実績 (成果)	参加人数・アンケート結果 <u>参加人数 延べ 93 名</u> ■初級アンケート (アンケート回収 13 名) *現在、健康づくりに関する活動のリーダーをしているか 行っている (8%) 行っていない (92%) *今後、地域で健康づくりに関する活動を行いたい

	とてもそう思う（38％）ややそう思う（62％） ＊今後、地域で健康づくりに関するリーダーになりたいか とてもそう思う（8％）ややそう思う（46％） あまり思わない（46％） 【感想】・ノルディック・ウォーキングを実践している。 ■中級アンケート（アンケート回収 12 名） ＊現在、健康づくりに関する活動のリーダーをしているか 行っている（33％）行っていない（67％） ＊今後、地域で健康づくりに関する活動を行いたい か とてもそう思う（34％）ややそう思う（50％） あまり思わない（8％）そう思わない（8％） ＊今後、地域で健康づくりに関するリーダーになりたいか とてもそう思う（25％）ややそう思う（50％） あまり思わない（8％）思わない（17％） 【感想】・皆で考え実践できたことが楽しくて良かった。 ・ゲームを一から作るのが難しかった。 ・地域に戻って活用できそう。もう少し時間があればよかった。 <u>成果</u> ・初級編 12 名、中級編 12 名が皆出席であり、24 名の修了書を発行することができた。 ・中級編では、75％の方が今後、地域で健康づくりのリーダーになることを希望されており、リーダー養成の目的には概ね達している。 ＜参考＞2018 年度参加人数（初級・中級・上級） 169 名（延べ人数）
改善策 （次年度への取組）	・中級編（4 回目）の時間を延長し 2 時間 30 分とする。 ・上級編のハードルが高い（企画・立案・募集）という声に対して、内容を再考すると共に、コース名を変更する（基本コース、応用コース、上達コース） ・広報範囲を広げる、募集期間を長く取る等、募集を工夫し定員に達するようにする。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援事業)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・11・15
取組事業 No.	B-2-2 健康ウォーキングイベント
2019 年度の具体的な活動	地域住民に向けた健康増進事業の 1 つ。 「自然に親しみ、健康づくり みんなで楽しくウォーキング」として、聖泉大学の学園祭 (万聖祭) と同時開催した。 日時：2019 年 11 月 16 日 (土) 10:30~12:00 内容：①聖泉大学の 401 教室に集合し、ウォーキングのコツ等の講義 ②宇曾川沿いをウォーキング。 ウォーキングの際には身近な植物の発見の他、ゴミの収集も含め地域の美化にも貢献する内容。 講師・役割： ・多胡陽介 (聖泉大学人間学部准教授) *ウォーキング ・佐藤 進 (環境フォーラム湖東) *植物観察 ・いずみ健やか塾 (健康推進自主グループ) *運営サポート ・ボランティア学生 (聖泉大学) *ウォーキング他
実績 (成果)	健康支援事業のひとつとして実施した。 参加人数 29 名 (事前予約 14 名、当日参加 15 名) ※定員 20 名の募集 <u>成果 1 (参加者増)</u> ・学園祭の場で開催したこともあり、参加者が増加した。また約半数が事前申込無しの当日参加者であった。 <u>成果 2 (滋賀県との連携)</u> ・2018 年度は、健康づくりリーダー養成講座の上級編受講者が企画・運営 (健康&観光) を行ったが、本年度は、上級編が実施できなかったため、滋賀県 (湖東環境事務所・環境フォーラ

	ム湖東）と連携し、企画・運営（健康&環境）を行った。 <u>成果3（内容の充実）</u> ・本年度は、単に健康のためだけのウォーキングでなく、地域にある身近な自然・植物を観察しながら、ゴミ拾いも行いう等、「健康」と「環境」の取組みを多様なメンバーで実施できた。また、参加者も子供から高齢者まで幅広い年齢層が参加し、世代間の交流もできたように感じる。 <参考> 2018 年度参加者数 21 名
改善策 （次年度への取組）	・次年度も継続してウォーキングイベントを実施する。 ・今回、企画が遅くなったため募集期間が短くなった。健康づくりリーダー養成講座上級編とは切り離して企画することを検討する。 ・テーマやウォーキングの場所、時期については、早めに検討を開始する必要がある。また、次年度は、参加者にアンケートを取り、次年度以降の事業計画に活かす。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援事業)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・11・17
取組事業 No.	B-2-3 認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	(キックオフセミナー「認知症とともに生きるために」) 認知症患者の生活の質の改善とその家族・介護者の負担の軽減をはかり共生社会を実現させるためのセミナーを開催した。 【開催日時】 2019 年 9 月 27 日 (金) 13:00～16:00 【会場】 滋賀大学彦根キャンパス 5 番教室 【詳細】 (1) 基調講演 ピープルデザイン研究所代表の須藤シンジ氏より川崎市や渋谷区で行なった認知症に関わるプロジェクトについてご報告をいただき、大阪大学実践薬学研究センターの仁木一順氏に VR を使った認知症患者の QOL の改善について最近の研究成果についてご報告いただいた。 (2) ワークショップ 後半は参加者をグループに分けて、それぞれの抱えている課題やその課題についてどのようなアプローチが可能であるかについて、ディスカッションしていただいた。 (認知症ワークショップ) 滋賀大学サステナウィーク 2019 のイベントの一つとして、認知症ワークショップを開催。 【開催日時】 2019 年 11 月 25 日 (月) 12:10～13:00 【会場】 滋賀大学彦根キャンパス特設「バイオマステント」内 【詳細】 (1) このワークショップの主目的は、認知症について一般の学生にも広く知ってもらうきっかけとなることと、認知症患者やその家族と交流することにより、課題を明らかにすることで

	あった。 (2) 今回はテント内に設置された薪ストーブの点火を当事者の方にしていただき、また夕方からは、テントサウナ（薪ストーブの上の石に水をかけて蒸気を立てる）を体験してもらった。 (定例会の開催) ほぼ毎週、水曜日に学生と地域の介護職員の方で集まり、情報交換や今後のプロジェクトの展開について検討を行った。
実績（成果）	【参加者等】 連携機関：4 機関（11 名）、外部講師：2 機関（2 名）、一般参加者：18 名 <u>成果 1 多様な主体の参加</u> キックオフセミナーは、行政、大学機関、介護施設職員、学生など多様なメンバーの参加があり、認知症プロジェクトの開始にあたりふさわしい機会となった。 <u>成果 2 具体的取り組み内容の検討の開始</u> キックオフセミナーを通じて、課題を抱えているご家族ともつながることができ、11 月の認知症ワークショップにもご参加いただいた。水曜定例会なども経て、これにより具体的な取り組みが見えてきた。
改善策 （次年度への取組）	より多くの学生を巻き込むための工夫が必要。具体的には次年度からは単位化された授業（プロジェクト科目）を開講する。連携協議会内の連携強化も課題。キックオフセミナー以上に、各大学におられる研究者や学生と協働できる場の検討を行う。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援事業)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・9・11・17
取組事業 No.	B-2-4 健康 IoT を利用したきょういくときょうようの健康づくり事業
2019 年度の具体的な活動	・健康 IoT リーダー養成講座を以下の日時、場所で開催。 日時：2020 年 2 月 22 日 (土) 10:30~12:00 場所：ながはまウェルセンター (長浜市小堀町 32 番地 3) ・開催にあたり、講演については長浜バイオ大学 メディカルバイオサイエンス学科 永田教授に講師を依頼。 講演テーマ「IoT 技術の今と将来的な発展、 健康づくりへの応用の可能性」 ・参加者募集チラシを長浜バイオ大学と調整の上、作成。 1 月に納品。
実績 (成果)	・チラシを各所に配布し、参加者募集を開始。 併せて報道機関への資料提供等広報を行い募集した。 また、市内企業にも直接伺い参加者を募集した。 ・当日参加者 24 名
改善策 (次年度への取組)	・スマホの使い方について参加者ごとに使用できるレベルが違うため、可能であれば参加者を絞ったり、レベルごとにわけたりすることでより効果的な講座が実施できると考えられる。 ・上記と関連して、スマホの種類が参加者ごとに違ったため、一貫した説明が困難だった。らくらくスマホといわれる機種の中にはアプリ自体をとることが難しい機種もあり、こういった機種への対応については、専門スタッフを配置するなど、実施体制の強化が必要と感じた。

	・時間が短く、多くのことを伝えるには時間が足りなかったため、回数をわけることでより詳細に伝えることができたと考えられる。(途中帰られる参加者が多かった) ・なぜ新しい健康管理方法を学ぶ必要があるのか、講座をする側、受ける側ともに日本の社会動向（人生 100 年時代と健康との関連）について学び、身近に感じることが重要だと感じる。 ・市内で学びを広めてもらう仕組みづくりが課題。
--	--

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	11・16
取組事業 No.	B-3-1 国際親善交流音楽会
2019 年度の具体的な活動	【開催日時】2020 年 2 月 22 日 (土) 14:00～16:00 【会場】長浜文化芸術会館 【詳細】 下記の共演による音楽会を開催した。 ・滋賀文教短期大学 音楽専門 教員 1 名、職員 2 名 ・滋賀文教短期大学 有志学生 6 名 ・滋賀大学 オーケストラ (部活動) 有志学生 13 名 ・ハレ大学 (ドイツ) 音楽家 1 名 ・ブリュッセル・シンフォニエッタ (ベルギー) 音楽家 1 名 ・国内の他大学関係者 (音楽家) 2 名
実績 (成果)	【参加者等】 連携機関：演奏 2 大学 (22 名)、後援 2 市 外部団体：演奏 国外 2 機関 (2 名)、演奏 国内 1 機関 (2 名) <u>成果 1 来場者数</u> 目視確認において 306 名が来場した。456 席中運営者用に最後列 12 席を確保したため、444 席に対して約 68.9%が充足した。 <u>成果 2 広範囲にわたる広報</u> 京都府、滋賀県、岐阜県において広報を行った。別の音楽会

	当日プログラムへのチラシの挟み込み、芸術関連施設へのチラシ設置、滋賀県内の小中高等学校への案内、PF 参画団体内での掲示、市の HP、市の広報紙、地元のスーパーマーケットなど様々な場所で広報をした。アンケートの開催を知ったきっかけを質問した項目でもその成果が確認できた。 <u>成果 3 アンケート結果</u> アンケートを回収したうち、満足度（①とても良かった②良かった③ふつう④あまり良くなかった⑤良くなかったの択一式）では、「とても良かった」が約 67%、「良かった」が約 31%で、満足した方は約 98%である。 <u>成果 4 国際交流・地域資源の活用</u> 国内含めて三か国の演奏家が集まり、学生を交えて音楽による国際交流ができた。長浜文化芸術会館を会場として設定し、地域の資源を活用できた。
改善策 (次年度への取組)	<u>改善策 1 広報の早期化</u> 今回は、広報の対象範囲は良かった。しかし、広報の期間が短かった。開催の一个月前には案内ポスターの発送が完了している状態にすべきだった。また、早期に準備を行うことで印刷代を削減することもできる。 <u>改善策 2 PF 関連機関のさらなる参加</u> 本年度は準備の都合上連携機関としては 2 大学からしか参加できなかった。次年度は、より多くの大学等から学生が参加できるように早期より計画や準備をおこなう。 <u>改善策 3 より良い演奏のためのリハーサル時間の拡充</u> 本年度の当日の会場におけるリハーサル時間は、音楽会前日の夕刻、音楽会当日の午前のみで合計 1 日程度である。音楽は使用するホールごとに同じように演奏しても響きも変わり、より良い音楽を奏するためには、リハーサル中に当初の予定と異なる舞台配置になったり、楽器を追加したりする場合もある。次年度、本事業の予算を増加させられるならば、2 日間程度は当日の会場をリハーサルや準備のために使用したい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・5・10・11・16・17
取組事業 No.	B-3-2 学生の地域貢献プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	3 つの学生の地域貢献プロジェクトを実施 活動期間：2019 年 5 月～2020 年 2 月 連携先：地域の活性化、課題解決のため、地域や自治体・産業界等と連携し、学生が取組むプロジェクト。 (各プロジェクトには、指導教員が付く) <u>1) 認知症の予防啓発プロジェクト</u> 超高齢化社会のなかでますます課題となる認知症に注目し、認知症予防のための啓発運動を地域の高齢者サロンや学園祭で行った。 活動学生数：7 名（看護学部 4 名、人間学部 3 名） 連携先：稲枝町ボランティアグループきずな、西肥田町ニコちゃんサロン 開催日：11 月 6 日（彦根市稲部町サロン）、11 月 16 日・17 日（聖泉大学学園祭）、11 月 23 日（彦根市西肥田町サロン） <u>2) 地域活性化への貢献-高齢者と看護学生の地域内交流-</u> 看護学生は高齢者と交流し、地域の歴史や文化、生活の知恵を学ぶと共に、高齢者と一緒に、地域の健康づくりや安心な町づくりの活動を実施。

	活動学生数：44 名（看護学部） 連携先：地域高齢者サロン（西肥田町、肥田町、稲部町） 認知症の人と家族の会（やすらぎ庵） 活動日：月 1～2 回 <u>3）オレンジリボン運動（子ども虐待予防啓発）オレンジレンジャー2019</u> 子どもに対するマルトリートメント（不適切な関わり）を予防する関わりについて、啓発運動を実施。 活動学生数：10 名（別科助産専攻） 連携先：滋賀県看護協会 活動日：①看護協会の看護フェア、②聖泉大学の公開講座 ③助産学実習
実績（成果）	<u>参加学生数合計 61 名</u> 本年度の新規事業。プロジェクト 3 組は、年間を通じた活動の他、12 月 8 日学生の地域貢献活動報告会（WG-B 取組 4 事業）に参加し、活動報告＆交流会に参加した。 <u>成果</u> 学生の学びとの連携・地域の課題対応・地域住民との協働等、様々な形の連携・貢献活動が実施できた。また、報告会に参加することにより、活動への理解やネットワーク構築につながった。また、活動学生は地域への愛着を感じている（取組 4-2 で調査）
改善策 （次年度への取組）	・次年度も継続してプロジェクトを実践する（連携先は異なる場合もある）。 ・報告会や交流会の実施方法について連携先や PF 連携機関と検討する。 ・自治体や産業界との連携や複数の大学・連携機関が関わる地域連携プロジェクトの可能性について検討していきたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業																																																						
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実																																																						
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。																																																						
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業)																																																						
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。																																																						
活動指標 (KPI)	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う																																																						
対応 SDGs 番号	4・11																																																						
取組事業 No.	B-3-3 彦根市リーダー研修																																																						
2019 年度の具体的な活動	2017～2018 年度は、聖泉大学と彦根市（生涯学習課）が実施。本年度は、聖泉大学・プラットフォーム・彦根市で実施した。 ■彦根市リーダー研修（中級編） 防災をテーマにした活動を通じて「生きる力」を育てる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">月日</th><th style="width: 55%;">内容</th><th style="width: 15%;">少年</th><th style="width: 15%;">青年</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 月 19 日</td><td>オリエンテーション、P A 研修</td><td>8</td><td>0</td></tr> <tr> <td>6 月 22 日</td><td>防災キャンプ（1 日目）</td><td>9</td><td>3</td></tr> <tr> <td>6 月 23 日</td><td>防災キャンプ（2 日目）</td><td>9</td><td>3</td></tr> <tr> <td>8 月 19 日</td><td>防災キャンプ（1 日目）</td><td>8</td><td>2</td></tr> <tr> <td>8 月 20 日</td><td>防災キャンプ（2 日目）</td><td>8</td><td>2</td></tr> <tr> <td>9 月 14 日</td><td>修了式・保護者研修会</td><td>8</td><td>1</td></tr> <tr> <td colspan="2">延べ人数</td><td>50</td><td>11</td></tr> </tbody> </table> ■彦根市リーダー研修（上級編）「つくる力」を育てる <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">月日</th><th style="width: 55%;">内容</th><th style="width: 15%;">少年</th><th style="width: 15%;">青年</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 月 19 日</td><td>オリエンテーション</td><td>9</td><td>0</td></tr> <tr> <td>6 月 8 日</td><td>サマーフェスタ実行委員のお話</td><td>7</td><td>2</td></tr> <tr> <td>6 月 29 日</td><td>サマーフェスタ出店準備</td><td>5</td><td>3</td></tr> <tr> <td>7 月 20 日</td><td>話し合い、材料購入の下見</td><td>6</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>			月日	内容	少年	青年	5 月 19 日	オリエンテーション、P A 研修	8	0	6 月 22 日	防災キャンプ（1 日目）	9	3	6 月 23 日	防災キャンプ（2 日目）	9	3	8 月 19 日	防災キャンプ（1 日目）	8	2	8 月 20 日	防災キャンプ（2 日目）	8	2	9 月 14 日	修了式・保護者研修会	8	1	延べ人数		50	11	月日	内容	少年	青年	5 月 19 日	オリエンテーション	9	0	6 月 8 日	サマーフェスタ実行委員のお話	7	2	6 月 29 日	サマーフェスタ出店準備	5	3	7 月 20 日	話し合い、材料購入の下見	6	2
月日	内容	少年	青年																																																				
5 月 19 日	オリエンテーション、P A 研修	8	0																																																				
6 月 22 日	防災キャンプ（1 日目）	9	3																																																				
6 月 23 日	防災キャンプ（2 日目）	9	3																																																				
8 月 19 日	防災キャンプ（1 日目）	8	2																																																				
8 月 20 日	防災キャンプ（2 日目）	8	2																																																				
9 月 14 日	修了式・保護者研修会	8	1																																																				
延べ人数		50	11																																																				
月日	内容	少年	青年																																																				
5 月 19 日	オリエンテーション	9	0																																																				
6 月 8 日	サマーフェスタ実行委員のお話	7	2																																																				
6 月 29 日	サマーフェスタ出店準備	5	3																																																				
7 月 20 日	話し合い、材料購入の下見	6	2																																																				

	7月25日	試作品づくり	8	0
	7月29日	イルミネーションの飾り付け	6	0
	8月3日	サマーフェスタ in 稲枝 出店	10	7
	9月14日	学園祭出店に向けての話し合い	7	0
	10月5日	学園祭・妹背まつり出店準備	6	0
	11月4日	学園祭出店準備	7	3
	11月16日	学園祭1日目（出店）	8	3
	11月17日	学園祭2日目（出店）	5	6
	12月7日	妹背まつり・出店準備	9	1
	12月21日	妹背まつり出店	10	5
	2月15日	妹背まつり反省会&懇談会	8	3
	2月29日	修了式・保護者研修会（延期） 新型コロナウイルス感染症の対応により延期		
		延べ人数	111	35
実績（成果）	学生の参加人数7名（聖泉大学、滋賀県立大学、京都女子大学） 延べ人数：46名（中級11名、上級35名） <u>成果1</u>：初級（本年度は無し）から、中級・上級の3年間のプログラムであり、考えることや体験・協働を積み重ねることで、児童・生徒の成長につながった。 <u>成果2</u>：複数大学の学生が児童・生徒の成長を見守りながら、サポートすることで、青年リーダー自身の成長につながった。 <u>成果3</u>：彦根市・大学の他、防災士会・自衛隊・稲枝地区まちづくり協議会・妹背の里等と協働で事業を推進し、連携が深まった。			
改善策 （次年度への取組）	次年度は、上級のみを実施する予定。 青年リーダー（大学生）の募集について、本年度はやや人数が少なく、運営に苦勞することもあったため、次年度はプラットフォームの各大学で、早めからの広報を行い、大学生10名以上の登録を目指す。 次々年度以降の実施についての検討が必要。			

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・8・11・17
取組事業 No.	B-3-4 人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業
2019 年度の具体的な活動	(人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業の説明会) 人口減少の動向と地域への影響をテーマとした講演会および「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」募集の説明をおこなった。 【開催日時】2019 年 7 月 12 日 (金) 19:00～20:30 【会場】湖北文化ホール 【詳細】 滋賀大学社会連携センター長 石井 教授による人口減少の動向と地域への影響をテーマとした講演会を実施。日本全体、滋賀県、長浜市の人口減少・少子高齢化の現状と今後の見込み、将来に向けて地域でどのような取り組みが期待されるかなどの内容について説明いただいた。 また、「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」の説明をおこない、併せて募集を開始した。 (まちづくり講演会) 地域が連携して取り組む先進的なまちづくりの事例発表および「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組

	支援事業」の取組発表をおこなった。 【開催日時】2019年12月15日（日）13:30～15:40 【会場】湖北文化ホール 【詳細】 蒲生地区まちづくり協議会 事務局長 西野芳和氏による活動事例報告。協議会設立の経過、活動状況、社団法人の立ち上げなどについて説明いただいた。 また、「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」に取り組まれた3地区からの活動報告、パネルディスカッションを実施。
実績（成果）	【参加者等】 2019年7月12日（金） 自治会役員、地域づくり協議会役員、行政職員 約50名 2019年12月15日（日） 自治会役員、地域づくり協議会役員、行政職員等 約150名 <u>成果1 人口減少に対する健全な危機感の醸成</u> 小地域毎の人口減少・少子高齢化の現状と将来人口推計を説明することにより各地域の人口の動向を把握してもらい、人口減少に対する意識を高めることができた。 <u>成果2 人口減少社会への対応策の検討</u> 「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」に取り組まれた地域では、住民が課題解決に向けた検討を重ねられ、その内容を報告会で発表された。他地域でも同様の課題を抱えていることが多く、人口減少に適応するための取り組みを喚起することができた。
改善策 （次年度への取組）	事業実施期間が8～12月となり、報告会は各種団体の役員改選直前となる。事業内容を次期役員にしっかり引き継いでもらう仕掛けや、継続的に事業に取り組んでもらえる団体が主体となってもらえるような内容の事業としたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4・9
取組事業 No.	B-3-5 ビジネスメッセ
2019 年度の具体的な活動	びわ湖環境ビジネスメッセ (2019 年 10 月 16 日～18 日) に彦根長浜地域連携協議会としてブース出展 (発表者は学生) 個別ブースにてプラットフォーム事業の趣旨、活動実績、活動予定を発表した。 学生団体は 3 日間の開催中に、下記 2 機関 4 団体が参加。 ① 未来生物学研究所 (長浜バイオ大学) ② 食品分子機能学研究室 (長浜バイオ大学) ③ 廃棄物バスターズ (滋賀県立大学) ④ フラワーエネルギー「なの・わり」 (滋賀県立大学)
実績 (成果)	【ブース来場者】 10 月 16 日 (水) : 30 名 10 月 17 日 (木) : 26 名 10 月 18 日 (金) : 30 名 名刺交換 9 件 【発表学生数】 2 名 5 名 4 名 (学生計 11 名) 【発表内容】 事業全体の概要・中長期計画の案内と下記 4 件の学生によるブース発表を行った。

	① 未来生物学研究所（長浜バイオ大学） ② 食品分子機能学研究室（長浜バイオ大学） ③ 廃棄物バスターズ（滋賀県立大学） ④ フラワーエネルギー「なの・わり」（滋賀県立大学）
改善策 （次年度への取組）	主催者の方針により、次年度の開催は見送られることとなったことから次年度本事業は実施しない。また、次々年度以降の開催も主催者から発表されておらず未定である。 本年度のブース発表で、びわ湖環境ビジネスメッセはビジネスの場であり、本プラットフォームでの活動を学生が紹介するだけでは趣旨と相違していると感じた。 本事業は学生によるブース発表を KPI と位置付けているが、今後開催されることがあれば、学生によるブース発表を継続しつつ、来場者へ産官学連携事業の提案等も行えればよりよいのではないかと考える。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 4 (ネットワーク推進事業)
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標 (KPI)	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	B-4-1 彦根長浜地域連携プラットフォーム・セミナー大会&交流会
2019 年度の具体的な活動	彦根長浜地域連携プラットフォームでツナガル「SDGs を通して～学び・集い・語りあう～」をテーマに開催。 日時：9 月 28 日 (土) 10:00～18:00 会場：聖泉大学 内容： <u>P F 紹介</u> (幹事校、彦根市、会場校より説明とお願い) <u>学び</u> (公開講座&講演&展示) 看護とストレス耐性を高めるリラクセーション法、チェスタトン「ブラウン神父」シリーズに見出すキリスト教哲学、・お金と幸福感の関係、「ひたすらなるつながり」の社会を目指して、子ども食堂展示、しがの長寿の秘訣、町家プロジェクト活動報告、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムについて考える、地域での学びを世界へ展開する人が育つ大学。 <u>集い</u> (防災のつどい&体験) 防災体験、煙体験・消防車展示、考える防災教室・クッキング体験、宇曾川生き物・自然観察会、シーグラス・クラフト体験、出張フードバンクひこね <u>語りあう</u> (ワークショップ・交流会) SDGs でコミュニケーション～新しいつながりを求めて～(カードゲーム)、イマ&ココでツナガル交流会～P F の資源を知って活用しよう！

実績（成果）	【参加人数】延べ 429 名	種類	講座数	参加数
		P F 紹介	1	35 名
		学ぶ	9	193 名
		集い	6	142 名
		語りあう	2	59 名
	【アンケート結果】 今回のイベントの内容について（回答 35） 満足（55％） やや満足（32％）、どちらでもない（12％） やや不満（0.3％） 今回のイベントが地域の活性化に役立つと思うか（回答 34） とても役立つ（50％）、やや役立つ（35％） どちらでもない（9％）、あまり役立たない（6％） 【感想・意見】 ・子ども向けのワークショップを増やした方がよい。・広報を広げて子育て世代も参加できるようにしてほしい。・現代人は人と人の交流が大切。・継続することで地域の人々の参加も増え各地域の活動に繋がるのでは。・一般企業の方にももっと参加してほしい。・5 大学の PF のホームページを作り情報発信をしっかりしてほしい。国際交流ができればおもしろい。横のつながりが増える。参加人数が少ない。初回のイベントのため、今回の結果を受けて改善が必要。・PF が筑波や田辺と並ぶ学研都市と呼ばれるように。等 <u>成果</u> ・満足度 87％（満足＋やや満足） ・地域活性化に役立つ 85％（とても役立つ＋やや役立つ） 回答数は少なかったが、内容については概ね好評であり、この取組みが地域活性化に役立つという意見が多かった。また、感想の中に「継続」「交流」というワードが多かった。			
改善策 （次年度への取組）				
本年度は初回のため、準備や調整に時間がかかり、広報の時間が取れなかった。今回のアンケート結果を基に改善を行う。 <u>改善 1</u> ：本年度を振り返り PF 連携機関と協議し中身の充実を図る。PF は場を提供し、それぞれの得意・強みを持ち寄る形にすることで、継続に繋げる。 <u>改善 2</u> ：セミナー大会へ参画（出展）している各種団体等の活動について、満足度・課題・要望等のヒアリングを行い、協議会として支援できることの幅を広げる。 <u>改善 3</u> ：年度当初より出展募集を行い、広報の時間を確保する。				

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	取組 4 (ネットワーク推進事業)
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標 (KPI)	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	B-4-2 学生の地域貢献活動報告会&交流会
2019 年度の具体的な活動	学生の地域貢献活動の報告会とプロジェクト取組み学生・教員による交流会を実施した。 日時：12 月 8 日 (日) 9:00～12:00 報告会 12:30～14:00 交流会 会場：聖泉大学 (学生の報告は分科会形式で実施) 内容：報告会 (分科会)：12 プロジェクト (5 大学) 10 分発表、10 分質疑 ポスター展示 4 プロジェクト (3 大学) P F の 5 大学の先生よりそれぞれ講評・アドバイスを頂いた。 交流会：グループに分かれて意見交換 異なるプロジェクトの学生・教員が 6 グループに分かれ、意見交換を行った。
実績 (成果)	参加人数： 273 名 (プロジェクト関係者 90 名、一般 15 名、その他学生 148 名、P F 運営教職員 20 名) ※内、交流会参加者 37 名 (ファシリテータ除く) アンケート結果 <u>[対象]プロジェクト活動学生 (回答数 37)</u> ■地域貢献ができたと感じたか とても感じる (57%) やや感じる (43%) ■活動に取り組んだ結果、地域 (滋賀県) に愛着を持ったか ＜県内出身者＞

	とても愛着を持った（68％）やや愛着を持った（32％） ＜県外出身者＞ とても愛着を持った（50％）やや愛着を持った（50％） ■交流会に参加した感想【自由記述】 ・多くの方とお話ができ新しい可能性を感じることができた。 ・違う分野の方とお話できたのがとてもプラスでした。・こんなにも滋賀県でたくさんの活動をしているとは知らなかった。 ・食べながら交流会を行うのは気楽でとても楽しかった。・自分のテーマと似ていても違う視点や違う接し方をされていて参考になることがたくさんあった。・もう少し時間を長くしてほしい。・連携して新しくできるものがあると確信しました。 <u>[対象]一般参加（学生・教職員・自治体・プロジェクト連携先・地域住民等）（回答数 33）※学生は1年生以外</u> ■報告会全体を通して 満足している（58％）、やや満足している（42％） <u>成果</u> プロジェクト取組学生は自分自身の活動が地域貢献できたと前向きに捉えている。また滋賀県への愛着を全員が感じており、5大学の学生・教員による交流会もよい刺激になっている。また、一般参加者の満足度も高いため、継続していきたい。
改善策 （次年度への取組）	今回、参加したプロジェクト活動者同士のつながりや今後の発展について、年度が変わるとメンバーも変わるため、継続が課題である。 今後、アンケートを受けてPF関係者が、自治体や地域の方とどのように連携していくことが望ましいのか、次年度のよりよい実施方法について意見交換する場を設けていきたい。 愛着度については、地域活動に取り組んでいない学生との比較についても検討する。

③総評

ワーキンググループBの達成目標である「地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018年度比で20%増加させる」について、本年度は、活動件数33件（2018年度20件）となり、2018年度比65%増であった。活動参加者数2,269名（2018年度631名）となり、2018年度比260%増となった。新規事業が多かったため、件数や参加者数としての目標は達成することができたが、日程の重なり等、企画・運営の工夫が必要であった。

また、「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する」については、「学生の地域貢献活動報告会」に参加した学生に調査した結果、地域連携プロジェクトに参加した学生の地域（滋賀県）への愛着度は、「愛着を持った・やや愛着を持った」を合計すると100%の学生が愛着を持つという結果であった。評価年度である最終前年度（2023年度）に向け、2019年度は学生の地域貢献活動報告会でアンケート調査を行い、次年度から本格的に実施する予定である。

本年度の「地域コミュニティの活性化事業」における活動指標（KPI）の達成状況および具体的な内容は次のとおりである。

【取組1】生涯学習支援事業は、地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018年度比で100名以上（延べ人数）増加させる（KPI）について、本年度は、公開講座19講座と専門講座1講座を実施し、参加者は延べ532名であった。2018年度比91名増加しており、初年度から目標に近い数値まで達している。また、実施会場は、彦根・長浜の各大学を会場としてまんべんなく実施できた。アンケート結果からも参加者には概ね好評であり、2020年度も引き続き多様なテーマでの実施を目指す。一方、事前の日程調整が不十分であったため、開催日の重なりにより、スタッフ不足や効果的な広報活動ができなかったことが課題であった。

【取組2】地域住民に向けた健康増進支援事業は、地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに5件以上行う（KPI）について、本年度は、4件の事業を実施することができた。「健康づくりリーダー養成講座」や「健康IoTリーダー養成講座」等、地域住民の方が自主的に活動する事業が実施できたので、今後の地域への広がりを期待したい。また、「健康ウォーキングイベント」は、健康×環境として、学園祭等の行事と合同で実施したことで、幅広い年代の地域住民が参加した。「認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト」では、キックオフセミナーに多様なメンバーが参加しスタートが切れた。その後、学生を巻きこんだ認知症ワークショップに発展することができた。次年度は協議会所属機関や学生等と連携し協働できる場を検討していきたい。

【取組3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業は、産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに2018年度比で延べ人数100名以上増加させる（KPI）について、本年度は、137名の学生がまちづくり活動に参加した。本年度からの新規事業のため、2018年度比137名の増加となった。「国際親善交流音楽会」はドイツの音楽家を招き、複数大学の学生が共に参画できた。2020年度は、更

に参加大学を増やすと共に、企画・広報活動を早期から実施する。まちづくり支援事業として、「学生の地域貢献プロジェクト」や「彦根市リーダー研修」等は、自治体や地域と連携し活動することができた。年間を通じて活動を行う取組は、地域活性化を促進するため、学生の参加への工夫と継続性が重要であり、引き続き推進していきたい。「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」は、KPIに関わる学生の参加について工夫が必要である。「ビジネスメッセ」は、本年度に4件の学生発表ができたことは成果であったが、次年度は事業が中止になるため、活動指標の再考が必要である。

【取組4】ネットワーク推進事業は、地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する（KPI）として、2件の事業および交流会を実施した。「彦根長浜地域連携プラットフォーム・セミナー大会&交流会」では、自治体・産業界・各種団体と協働で実施することができたが、初めての取組みのため、イメージの共有に時間がかかると共に広報活動の時間が十分に取れなかった。交流会については、大学・学生・自治体・出展団体等で実施することができたが、セミナー大会終了後に実施したため、出展団体は片付け等の作業があり参加が困難であった。初年度のため、一般市民の出展を想定していなかったが、今後は検討していきたい。参加者のアンケートからは、今回のイベントの内容については、満足87%（満足55%・やや満足32%）、イベントが地域の活性化に役立つかについては、役立つ85%（とても役立つ50%、やや役立つ35%）であり、概ね好評であった。

「学生の地域貢献活動報告会&交流会」では、連携5大学12プロジェクトの発表と4プロジェクトのポスター展示を行った。プロジェクト取組学生と教員は交流会において意見交換をすることで、異なるプロジェクト同士の連携から新しいアイデアが生まれた。また、プロジェクトに取り組んだ学生は、プロジェクトを通して、地域貢献ができたと感じており滋賀県への愛着度も高かった。今後は、連携団体や地域団体への満足度調査を実施するとともに、地域教育を受ける学生、地域活動を行う学生とそうでない学生との愛着度の違いの調査についても検討をしていきたい。

WG-B 事業は、地域の各種団体や地域住民と直接関わる活動であり、プラットフォームの10機関が協働することで、地域の生涯学習や健康増進支援において多様なプログラムが提供できた。地域活動を行う学生同士の交流の場や地域団体や地域住民が集う、セミナー大会等、新たな学びや集いの場ができ地域の活性化に繋がる第一歩を踏み出した。また、企画運営等を連携機関が協働で行うことで、地域の特徴や互いの機関の理解が深まった。一方、初年度でもあり、事業計画までに十分な協議や調整ができなかったため、事業日程の重なり、広報活動の時間不足等が生じる等、事業主管機関に負担がかかった。次年度は、早い段階から、連携機関・地域団体や地域住民等と効果的な事業や実施方法について意見交換を行い、SDGsを活用した地域コミュニティの活性化に繋がる事業を検討する。また、プラットフォーム・セミナー大会等の「ネットワーク推進事業」では、ワーキングBの枠を越えた連携の可能性を探っていきたい。参加者の数値目標については、達成目標（KGI）・活動指標（KPI）共、2018年度比のため、本年度に多くの新規事業を実施できたことから、既に目標数を達成した。次年度は、さらなる目標を定め、彦根・長浜地域の活性化を推進していきたい。

(3) ワーキンググループC

① 活動概要

ワーキンググループCは「地域を担う次世代人材の育成」を担当しており、6つの取組事業「SDGsをテーマにした共同講義事業」、「単位互換事業」、「幼、小、中、高校生への学習支援事業」、「地域内進学促進事業」、「地域人材活性化支援事業」、「共同FD・SD事業」を通して彦根・長浜地域における魅力的な人材の育成の実現を目指している。そのために、評価年度である最終年度（2023年度）の前年までに2つの最終目標を達成することを掲げた。

ワーキンググループCの達成目標

- ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を2018年比で20%増加。（2023年度評価）
- ・彦根・長浜連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を2019年比で20%以上の増加（2023年度評価）

本年度は、上の6つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

「SDGsをテーマにした共同講義事業」における活動指標（KPI）

- ・SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。

単位互換事業（KPI）

- ・単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる

幼、小、中、高校生への学習支援事業（KPI）

- ・幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。

地域内進学促進事業（KPI）

- ・プラットフォーム事業参加校合同で高生向けの大学説明会を年1回以上開催する。

地域人材活性化支援事業（KPI）

- ・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。

共同FD・SD事業（KPI）

- ・共同FD・SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

ワーキンググループCにおいては「地域を担う次世代人材の育成」を目標に様々な事業に取り組んだ。

「SDGsをテーマにした共同講義事業」として、特に本協議会における大テーマである「SDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出」の「SDGs」の知識や意識づけをすることを念頭に、事業の運営・構成に努めた。特にSDGsの理解や地方創生を根底にした講義を設け、特にこれからの地域を担う若い世代に向けて、開放された学びの場の提供を行った。

「幼、小、中、高への学習支援事業」として、特に各大学が中心となりそれぞれの大学が持つ知の資産を生かし、幼稚園児、小学生、中学生、高校生というまだ大学との関わりの薄い世代に向けて、各々の園、学校だけでは学びきれない新しい知識を、学習支援事業と言う形で実施した。また、学校に通うことが困難な不登校の生徒等の実態を知るとともに、学校以外の学びの場の提供を模索するための研究活動を立ち上げ、今後そのような生徒等に学びの提供を出来るような取り組みに結び付けられるようにした。

「地域進学促進事業」として、本プラットフォーム形成大学である 5 大学共同の大学説明会を計画・実施するにあたり、まず地域の現状等を本プラットフォーム形成組織の特に事情に通じた者を集め意見・情報交換等を行い、今後の説明会運営等の方向性の決定などの基礎作りを進めた。

「地域人材活性化支援事業」として、各大学の知の資産を生かし、広く地域に貢献できるような講座やコンクールの開催、研究会を実施した。また、それぞれの講座、コンクール、研究会等においては地域の抱える問題等を念頭にしたテーマ設定をして、その問題解決の一助となるような人材育成等を目指す事業の展開を目指した。

「共同 FD/SD 事業」として、大学設置基準において義務化された SD や、また各大学で取り組んできた FD を、それぞれの大学の枠を超えて、プラットフォーム参画機関在籍の教職員を対象として実施した。初年度の取り組みとして、地域連携等に関するテーマや SDGs の理解を深めるテーマ設定を筆頭に、各々の大学の個性も生かし、プラットフォーム事業を円滑に進めていくことに寄与できるような内容で実施した。

各事業においては、SDGs の開発目標を意識し各開発目標に紐づけし、豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出に寄与することが出来るように事業展開を図り、成果達成のために各活動の運営を連携協議会ワーキンググループ C が一丸となって取り組んだ。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業)(単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標 (KPI)	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-1 SDGs 単位互換科目
2019 年度の具体的な活動	・環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度を活用し、県内学生の SDGs の理解を促進することを目的とした、SDGs に係る単位互換科目を開講する。
実績 (成果)	・2019 年 8 月 23 日～25 日の 3 日間、滋賀県庁および滋賀県立大学において単位互換科目「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション～近江の暮らしとなりわい～」を実施した。 ・本講義には 5 大学から学生 64 名が参加した。(滋賀県立大学 39、滋賀大学 1、長浜バイオ大学 1、滋賀短期大学 1、立命館大学 22) ・第 1 日は、担当教員による SDGs の概要説明、SDGs パートナーズ CEO 田瀬和夫氏の講演「SDGs で六方よし」、また、滋賀県職員が県の取組を紹介する講義を行った。 ・第 2 日は、県内外企業の SDGs に係る取組を紹介すると共に、SDGs カードゲームを用いたワークショップ&ミニレクチャーを行った。 ・第 3 日は、滋賀県において SDGs に取り組む活動者の事例紹介や「SDGs と地方創生」を考える講演の他、参加者が SDGs 達成に向けたアクション・事業プランを考えるグループワークを行った。 ・県内大学生の SDGs に係る理解を深めるとともに、SDGs に係る具体的な行動に向けた意識の醸成を図ることができた。
改善策	・次年度も本年度と同様に本事業を継続する予定である。

(次年度への取組)	・大学により参加学生数にばらつきが見られるため、幅広く参加大学から学生が参加するよう効果的な広報周知に努める必要がある。
-----------	--

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業)(単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及びびわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標 (KPI)	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-2 キャンパス SDGs びわ湖大会
2019 年度の具体的な活動	・県内外の学生、小中高生等が SDGs の達成に向けた情報発信や交流を行う大会を滋賀県立大学で開催する。
実績 (成果)	・2019 年 11 月 16 日 (土)に滋賀県立大学において「キャンパス SDGs びわ湖大会～地域と共に育む新しい価値の創造～」を開催した。 ・大会では、基調講演、パネルディスカッション、ポスターセッション・動画コンテスト、ワークショップ等を行い、412 名が参加、参加校は 31 校であった。 ・基調講演「SDGs をアクションしよう!」では、独立行政法人国際協力機構(JICA)職員の高野翔氏が地元の福井で実践するまちづくり活動等について講演を行った。 ・パネルディスカッションでは、学生、企業、行政等の関係者が、それぞれの実践事例を発表するとともに、地域課題解決の糸口を探った。 ・ポスターセッション・動画コンテストでは、24 の作品が発表され、「エコスクール渋川小学校」が知事賞を、「守山高等学校チーム FE3C」が、学長賞を受賞した。 ・ワークショップでは参加者が 17 の会場に分かれて、それぞれに設定されたテーマ毎に、課題解決や今後の新たな展開について活発な意見交換を行った。 ・参加者、参加学校共に昨年度実施の SDGs 学生大会を上回り、

	県内外の学生等の対話や交流が深まり、SDGs に関する新たな行動につながった。
改善策 (次年度への取組)	・次年度も本年度と同様に本事業を継続する予定である。 ・次年度の実施に向けて、大会の実施時期や実施規模等について改めて検討するとともに、他大学や関係機関と共同し、取組が県域に波及するよう工夫する必要がある。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマとした共同講義事業)(単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標 (KPI)	・SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-3 単位互換提供科目「滋賀論」の開講
2019 年度の具体的な活動	授業のねらい：滋賀県が持つ独自の風土や地域の個性を生かした地域づくりを実現するための考え方を実践的に学ぶ。行政担当者や実践者による講義と、現場見学やディスカッションを通じて、滋賀県が抱える具体的な政策課題に対する実践事例を理解する。琵琶湖上でのフィールドワークをふまえて、琵琶湖を中心とした地域資源の活用と保全のバランスがとれた政策提案をおこなう。 前期集中講義 (3 日間)【6/22 (土)、6/29 (土)、7/6 (土)】
実績 (成果)	<u>受講者：聖泉大学 22 名、長浜バイオ大学 1 名 (立命館大 21 名)</u> 授業概要： 6 月 22 日 (土) ①オリエンテーションと概論 「世界単位と湖国小宇宙」の考え方にもとづいて、滋賀県について俯瞰的な概説をおこなう ②滋賀の地域資源の紹介・FW の事前学習 6 月 29 日 (土) ③琵琶湖クルージング：FW 琵琶湖を 1 日かけてフィールドワークする。普段は陸上から琵琶湖を眺めているが、今回は湖 (中心) から陸 (周辺) を観察する。この視点の違いに注意しながら、得られた「発見」や「気づき」をまとめていく。

	受講者の声 ・滋賀といえば琵琶湖、では琵琶湖を中心とした暮らしや生活、人々がいる、というその後が続くようになりました。 ・滋賀には彦根城や琵琶湖くらいしかなく、外国の人も安いかから住んでいるといった自虐的におもっていたが、職人や住んでいる人はプライドをもっていることに気がついた。 ・ソーシャルキャピタルの重要性を改めて理解することで地域を守ることがなぜ重要でその価値があるのか考えさせられた。 7月6日（土）④FWのふりかえり・県内における観光振興策に関する議論 ・滋賀の魅力の一つに寺社仏閣とそこで提供される豆腐やそばといった料理がある。しかし、おいしさが伝わりにくく、顧客が広がらないという課題を抱えている。そこで、今回は西明寺エリアを対象として、「豆腐」を活かした集客力を高めるためのアイデアを検討した。来訪時の割引、SNSでのPRの他、豆腐のスイーツデザートやベジタリアン向けといった具体的な商品提案や、工場見学や夏休みの自由研究や健康や美肌に特化した体験教室の展開がみられた。この他、季節ごとの定期的宅配といった提案があった。 ⑤滋賀県の行政政策とその課題・共生社会づくりに向けた取り組みについて講義とグループワーク ・共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業（厚生労働省）にとりくむ糸賀一雄記念財団・滋賀県障害福祉課と連携して開講した。研修で用いる「テキスト資料」「ほほえむちから」教材ビデオ「NHK スペシャルラストメッセージ」の提供を受けた。 受講者の声 ・滋賀県に共生社会の原点があるということを知らなかった。 ・看護師になると、障害者と関わるのが必ずあるので、ビデオでみたヨーロッパの看護師がおこなっていたように体だけでなく心の看護もしていきたい。
改善策 （次年度への取組）	講義内容については本年度と同様にフィールドワークを取り入れながら継続していくこととするが、本学以外の受講生が少ないことから、受講生増につなげるため、改善可能なものとして開講時期を変えるなどの検討をしていきたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (幼・小・中・高校生への学習支援事業) (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。 ・PF 参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-2-1 こどもプログラミング教室
2019 年度の具体的な活動	(こどもプログラミング教室の開催) 【開催日時】2019 年 12 月 14 日 (土) 13:00～16:00 【会場】長浜市さざなみタウン 【詳細】滋賀大学、総務省統計局、長浜市、彦根長浜地域連携協議会の四者が共催し、滋賀県教育委員会、長浜市教育委員会の後援を得て小学 5, 6 年生を対象に開催した。小学校の統計学習に役立つデータ検索をテーマに、データを分析するためのプログラミング学習を中心としたワークショップである。 プログラミングソフトには、次年度から小学校で必修となるプログラミング教育において最も多く採用されるであろう「Scratch」を使用した。
実績 (成果)	【参加者等】 (共催) 滋賀大学、総務省統計局、長浜市、彦根長浜地域連携協議会 (後援) 滋賀県教育委員会、長浜市教育委員会 <u>成果</u> 受講生 (11 名) は全員が親子で参加していたが、講義中分らないことがあると、自分から大学院生のアシスタント (4 名) に質問するなど、熱心に受講する姿が見られた。

	終了後は、「自宅でもプログラミングに取り組んでみたい」「学校の授業にも役立てたい」と意欲を持ってもらうことができ、充実したこともプログラミング教室となった。
改善策 (次年度への取組)	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保という課題は継続して開催することで達成可能と思われる。 ただ、本事業開催の会場には、プロジェクターやWiFi環境、一定数以上の電源口など、必要となる設備があり、開催場所が固定されてしまうおそれがある。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20% 増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (幼・小・中・高校生への学習支援事業) (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。 ・PF 参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	3・4
取組事業 No.	C-2-2 不登校プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	(研究会) 彦根市と近隣の不登校の実態についての研究会を開催した。 【開催日時】2019 年 8 月 19 日 (月) 午前 10 時から 11 時 30 分 【会場】彦根市福祉センター 1 階 11 会議室 【詳細】本プロジェクトの説明の後、彦根市教育委員会から市内の不登校の現場について話題提供を受け、情報交換を実施した。今後、先進事例である筑紫女学園大学とデモクラティックスクールまんじえの視察研修に伺うことを報告した。 (視察研修①) 【開催日時】2019 年 9 月 19 日 (木) 9 時 30 分から 【会場】デモクラティックスクールまんじえ (愛知県岩倉市) 【詳細】学校以外の学びの場活動実施のスクールを視察した。 (視察研修②) 【開催日時】2019 年 9 月 24 日 (火)・25 日 (木) 【会場】筑紫女学園大学、太宰府市教育支援センター 【詳細】不登校支援として大学施設を使った子どもの居場所活動を展開。太宰府市の不登校支援の取り組みの一つとして教育支援センターも訪れ、事業連携の実際を学んだ。 <今後の予定> (講演会)

	【開催日時】2020年3月7日（土）13時30分から（中止） 新型コロナウイルス感染症への対応により中止 【会場】大学サテライトプラザ彦根 【詳細】「これからの教育 デモクラティックスクールという選択（仮）」をテーマに、デモクラティックスクールまんじえの今井恭子さんを迎えて講演会を実施する。 （研修会への参加） 【開催日時】2020年3月16日（月）から19日（木） 【会場】デモクラティックスクールまんじえ（愛知県岩倉市） 【詳細】子どもとの関わり方・教室運営の実際を学ぶ。
実績（成果）	【参加者等：研究会】 彦根市教育委員会1名、彦根市子ども未来部子ども・若者課1名、彦根市社会福祉協議会1名、滋賀県立大学1名、聖泉大学1名、滋賀文教短期大学1名、運営：滋賀大学1名 <u>成果</u> ・彦根市の不登校の現状について知ることができた。 ・各組織の子ども・若者サポートの取り組み状況を知れた。 ・大学内での不登校の子ども支援の可能性を共有できた。 ・教育委員会の考え方（学校へ戻すという視点から多様な教育機会にも理解）を知ることができた。 【参加者等：視察研修】 滋賀大学（柴田） <u>成果</u> ・不登校支援だけでなく、オルタナティブスクールとして既存の学校教育に代わる教育について学ぶことができた。
改善策 （次年度への取組）	初年度は取り組みにあたってのインプットに終始した。 学生の巻き込みも十分ではなかったことが課題である。 次年度では、少人数でも実際に不登校の子どもたちを受け入れてみることから、受け入れ体勢の整備を考えたい

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8・11
取組事業 No.	C-2-3 (地域内進学促進意見・情報交換会)
2019 年度の具体的な活動	彦根・長浜地域を活性化させるための一つとして、若い世代の地元高校生を、いかに地元の大学に進学させるか、またその後もいかに地元に着定させるかの包括的な方法等の意見・情報交換を行い、地元の高校生向けの大学説明会の共同運営方法の計画を立て、最終的に共同開催を行うことを目的に、また、自治体や商工会議所等からの意見等も参考にすることを目的に、以下の取り組みを実施した。 (1) 地域内進学促進意見・情報交換会実施の事前打ち合わせ 【開催日時】 2019 年 11 月 29 日 (金) 15:00～16:00 【会場】 滋賀文教短期大学 応接室 【詳細】 学生募集の担当者レベルでの事前打ち合わせを行い、実施時期、対象者等今後の方向性について検討した。 (2) 第 1 回 地域内進学促進意見・情報交換会 【開催日時】 2019 年 12 月 26 日 (木) 10:00～11:15 【会場】 滋賀文教短期大学 501 教室 【詳細】 関係機関においてプラットフォーム事業の概要、ならびに WG-C の現状と達成目標についての周知と事前打ち合わせの内容をもとに今後の取り組みについて議論された。
実績 (成果)	(1) 事前打ち合わせ 【参加者】 連携私立大学: 3 機関 (5 名)

	<u>成果 大学合同説明会等の実施について</u> 地元の高校生向けの大学合同説明会実施の対象・実施内容・実施時期について議論し、実施に向けた意見が確認された。 (2) 第1回 地域内進学促進意見・情報交換会 【参加者】連携機関・大学：9 機関（14 名） <u>成果1 実行委員会立ち上げ</u> 大学合同説明会に向けての準備・運営について全連携機関での実行はスケジュール調整も困難であるため、実行にあたる委員会立ち上げが承認された。 <u>成果2 自治会・商工会議所による包括的な参加</u> 彦根市・長浜市からの賛同も得られ関係機関の総意として承認された。 <u>成果3 他のWGとの連携による将来的な地域活性化</u> WG-A の事業において作成中である『産業界向け大学紹介ハンドブック』において、各大学の取り組みや教員による研究内容の紹介と合わせて産業界への情報発信をもとに卒業生の地元定着による地域の活性化に繋げることの提案がされた。
改善策 (次年度への取組)	大学合同説明会実施に向けた実行委員会設立が承認されたため、次年度には大学合同説明会の実施に向け進めていく。 まずは、対象者・内容・時期について検討を進めていく。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-3-1 SDGs 地域人材育成事業
2019 年度の具体的な活動	・滋賀県立大学で SDGs 活用型課題解決ワークショップ等(3 回)を行い、SDGs の視点を持った地域の担い手づくりを行う。
実績 (成果)	・滋賀県立大学において「滋賀の SDGs アクションを編集する」1st Step ワークショップを 3 回シリーズで実施中。 ・SDGs に関わっている「人」に注目し、参加者間で相互に取材し、記事にまとめるワークショップを実施。 ・第 1 回を 2019 年 12 月 15 日(日)に実施し、10 名が参加。参加者の SDGs に対する考えや取組を共有した。 ・第 2 回 は 1 月 26 日(日)、第 3 回 は 3 月 1 日(日)に実施 (現在、申込人数：14 名)
改善策 (次年度への取組)	・次年度も本年度の取組を踏まえ、内容を発展させたワークショップを継続する予定である。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-2 キャリアアップ講座「子どものプレパレーション検討会」
2019 年度の具体的な活動	保健・医療・福祉・教育機関在職者を対象とする医療を受ける子どものプレパレーションに関する講習 本年度は、プラットフォーム事業として「プレパレーション検討会 ビギナーコース」を 3 回実施する予定。 1 回目 6 月 3 日 (月) 13:30~16:00 聖泉大学 2 回目 10 月 8 日 (火) 13:30~16:30 聖泉大学 3 回目 2020 年 3 月 2 日 (月) (延期) 聖泉大学 新型コロナウイルス感染症への対応により延期 主に県内の小児科病棟で勤務している看護師が集まり、病院内で行われている痛みを伴う処置のプレパレーションの方法と子どもの権利が擁護されているかどうか考えた活動を行う。また、看護師同士でプレパレーションの現状を話し合ったり、入院中の子どものために作成したプレパレーショングッズ(パンフレットや DND)を持参したりして情報共有の場とする。そのうえで、プレパレーションが浸透できていない施設はどうすればよいか共に考えた。 また、8 月 10 日(土) には聖泉大学地域連携交流センター公開講座(プラットフォーム協賛事業)として、「多職種協働プレ

	パレーションの実際」のシンポジウムを行った。
実績（成果）	・第1回目(6月3日：参加者26名) 滋賀こどものプレパレーション検討会の発足と今までの経緯および年間スケジュールについて説明を行った。この会はアドバンスで初級コースのため、プレパレーションについての講義と実際の採血場面のDVDの視聴を行った。その後、参加者を4グループに分け、各施設のプレパレーションの現状や課題について話し合い共有した。課題については、次回再度意見を持ち寄る。 ・第2回目(10月8日：参加者24名) 8月10日に開催された「多職種協働のプレパレーションの実際」のシンポジウムの内容について報告を行った。その後、参加者の施設で実際に行っているプレパレーションの現状をもとに取り組みについて報告し話し合いを行った。主な内容として、N病院の手術室看護師が、手術を受ける子どものスタンプラリーを院内に取り入れたことや、O病院の子どもが救急受診をした時の説明や子どもへの同意についてどのようにすればいいのか悩んでいる場面であった。 参加者は積極的に意見交換を行っていた。特に問題はなかった。
改善策 (次年度への取組)	・小児専門病院、小児科病棟や小児に携わる看護師の参加を促す。参加した看護師とともに、子どもの権利を尊重した看護ケアを実践する病院作りをしていく。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-3 学びのカレッジ
2019 年度の具体的な活動	大学等の高等教育機関やまちづくりセンター等市町の諸施設におけるさまざまな学習機会提供機関により、高度な学習要求に応える体系的、専門的な学習機会を提供するとともに、学習機会を生かした社会参加を支援するために長浜学びのカレッジを開設する。この長浜学びのカレッジの学習目標は、地域資源や地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、一人ひとりが主体的に関わっていくための技能や判断力を身につけ、地域活動やボランティア活動の実践に結びつけていく地域学習とする。 理論講座、実験体験講座、現地講座を合計 9 回実施 ・7 月 27 日 開校式／オリエンテーション (長浜バイオ大学) 1) 7 月 27 日 理論講座「デメキンはなぜ眼が出ているのか?～魚のゲノム研究からヒトの 病気がわかる～」 - 場所：長浜バイオ大学 - 講師：長浜バイオ大学 大森 義裕 教授 2) 8 月 24 日 実験体験講座「新長浜北高校校内でのタブレットと簡単な実験」 - 場所：滋賀県立長浜北高等学校 - 講師：平塚 隆三 教員

	3) 9月7日 現地講座「国際交流ハウス GEO で学ぶ～多文化共生のまちづくり～」 場所：多文化共生国際交流ハウス GEO 講師：松井 善和 理事長 4) 9月21日 実験体験講座「顕微鏡観察」 場所：滋賀県立長浜北星高等学校 講師：滋賀県立長浜北星高等学校 教員 5) 10月26日 理論講座「植物バイオを活用した地域貢献」 場所：長浜バイオ大学 講師：長浜バイオ大学 古川 岳人 助教 6) 11月2日 現地講座「国友一貫斎の生涯に学ぶ～国友鉄砲の里まち歩き～」 場所：国友鉄砲の里資料館 講師：吉田 一郎 館長 7) 11月4日 実験体験講座「在来種伊吹そばを用いたそば打ち体験」 場所：滋賀県立長浜農業高等学校 講師：木戸 陽 教員 8) 11月23日 現地講座「地域の伝承野菜に学ぶ～「尾上菜（おのえな）」の収穫体験と料理～」 場所：長浜市立湖北中学校 講師：湖北町食事文化研究会 肥田 文子 代表 9) 12月7日 理論講座「ゲノムとはなにか～ゲノムから最先端医療へ」 場所：長浜バイオ大学 講師：長浜バイオ大学 小倉 淳 教授 ・7月27日 閉校式／意見交換会（長浜バイオ大学） <修了の認定> （1）理論学習講座で2回以上の出席。 （2）実験・体験学習講座で2回以上の出席。 （3）現地学習講座で2回以上の出席。 上の(1)～(3)をすべて満たした方には修了証書交付
実績（成果）	【内容】 7月から12月までの期間に、理論、体験、フィールドワークの講座を合計9回実施 【参加者】 20名（新規3名・昨年度受講者17名） 男性：14名／女性：6名 60代：6名／70代：13名／80代：1名 成果1 参加者数の増加

	昨年度の参加者数は17名だったので、3名増加（117%） 目標の30名に対しては10名不足（66.6%） 【修了者】 15名 理論講座受講率 76.7% 実験体験講座受講率 90% 現地講座受講率 81.7% 全体受講率 86.1% <u>成果2 各講座の受講率</u> 全9回を通して8割以上の参加者が受講し、最終的には15名が修了することができた。学びに対する意欲や関心が高く、講師への質問内容では、日常生活と結び付けた内容が多かった。
改善策 （次年度への取組）	新規の参加者を集める為に、募集期間を早めていく。また、参加率の高い世代に届きやすいように、チラシの配布する場所や団体を絞っていく。 9月～11月は土曜日のイベント等が多いので、秋の講座は極力避けて、6月～8月中や12月～1月中に集中して行えるように進めていく。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	11・17
取組事業 No.	C-3-4 本を紹介してみませんか 2019～POP・本の帯コンクール～
2019 年度の具体的な活動	読んで面白いと思った本について、POP または本の帯で表現したものを対象としたコンクールを行い、賞状・賞品を授与する。 応募作品は、その対象となった本とともに、本学図書館及び長浜市立図書館 2 館、長浜市内高等学校等で展示し、参加者以外の多くの人に見てもらうことで、その読書意欲の喚起を図る。 さらに、受賞作を掲載したカレンダーを作成して各所に配布することで、より広い範囲での読書意欲の喚起を目指す。 応募期間：2019 年 7 月 15 日(月)～9 月 22 日(日) 応募資格：①長浜市に在住または通学している中学生、高校生、大学生、専門学校生 ②長浜市内在住・在勤の 15～22 歳の方 応募作品：未発表の POP・本の帯作品 (本の種類は自由。漫画本は対象外) 応募方法：ちらしの応募票に記入の上、滋賀文教短期大学図書館又は長浜市立図書館(6 館)に持参
実績 (成果)	①広報 ポスター及びチラシを作成し、長浜市立図書館 長浜市内高等学校・中学校・専門学校 県内大学に配布

	②応募数(応募総数 71 点) [内訳] POP 64 点 中学生 : 16 点 (内審査外 15 点) 高校生 : 15 点 大学生 : 32 点 その他 : 1 点 本の帯 7 点 高校生 : 5 点 大学生 : 2 点 ③日 時 : 2019 年 10 月 10 日 (木) 午後 2 時 会 場 : 滋賀文教短期大学 翠湖館 あすなろホール 審査委員 委員長 滋賀文教短期大学 副学長 委 員 長浜市 3 名 聖泉大学 1 名 長浜バイオ大学 1 名 滋賀文教短期大学 5 名 審査結果 最優秀賞 1 点 (POP: 高校生 1) 優 秀 賞 4 点 (POP: 大学生 2 中学生 1 本の帯: 大学生 1) 佳 作 8 点 (POP: 一般 1 大学生 4 高校生 2 本の帯: 高校生 1) ④作品展示 滋賀文教短期大学図書館 2019 年 10 月 11 日 (金) ~23 日 (水) 長浜市立高月図書館 2019 年 11 月 13 日 (水) ~30 日 (土) 長浜市立長浜図書館 2020 年 2 月 5 日 (水) ~29 日 (土) 滋賀県立長浜農業高等学校図書館 2019 年 10 月 28 日 (月) ~11 月 7 日 (木) 滋賀県立伊香高等学校図書館
改善策 (次年度へ取組)	このコンクールは 2017 年度に滋賀文教短期大学と長浜市との共催で始めたもので、本年度で 3 度目となる。このコンクールの成否はどれだけの応募者を得ることができるかにかかっているが、3 年間で少しずつ増加はしてきているものの、未だ十分な数とはいえない。 応募状況としては、現状では自発的な応募者よりも学校の授業や学校図書館での大人の声かけによる応募が多くみられる。このコンクールが、若者へ読書をすすめるきっかけとなることは、このコンクールの目的からみても大変ありがたいことであり、今後、学校への働きかけをさらに積極的に行いたいと考えている。それには、高校生以上は一つの市を超えて通学している人が多いことから、広報や募集の範囲を広げることが有効ではないかと思われる。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-5 ナイチンゲール看護研究会・滋賀
2019 年度の具体的な活動	ナイチンゲール看護思想を学び、看護職の質の向上を図るため、ナイチンゲール看護思想を実践に活かすための研究会をプラットフォームで組織し下記の活動を行った。 ・彦根・長浜地域を中心に、現在の臨床の状況と教育における看護思想と実践を対比させながら、理解を深めるために月に一度例会を開催する。 毎月第 3 火曜日 17:30～19:00 ナイチンゲール著「病院覚え書」 聖泉大学本館会議室 参加者 10 名程度 ・彦根・長浜地域を中心に病院や施設に従事する看護職と、専門学校や大学に勤務する看護教員、および大学院や看護学部の学生、高校生が参加し、ナイチンゲールの看護思想を伝える講演会を開催する。 毎年 5 月 ナイチンゲール看護講演会開催 聖泉大学本館会議室 参加者 30～50 名程度 ・看護実践の中で不安や疑問に感じている看護職者がナイチンゲールの看護思想(理論)を学び、実践につなげていくためにそれぞれの学びをまとめる。 ナイチンゲール看護思想「病院覚え書」を読み解く

実績（成果）	・例会(4月16日：参加者13名) ナイチンゲール著「病院覚え書」の病院統計を読み解き、討論した。 ・講演会(5月18日：参加者31名) 「ナイチンゲールからの贈り物を受け止め、受け継ぐ」をテーマに、育和会記念病院 小野千秋教育担当師長、四条啜学園大学看護学部 樋口恭子教授を講師として迎え、講演会を行った。 ・例会(6月18日：参加者9名) ナイチンゲール著「病院覚え書」を読み解き、まとめとして全章を振り返って討論した。 ・例会(7月16日：参加者9名) ナイチンゲール著「病院覚え書」を読み解き、まとめとして全章を振り返って討論した。 ・例会(9月17日：参加者13名) ナイチンゲール著「救貧覚え書」を読み解く前に、ナイチンゲールの活躍当時の時代背景を振り返り、学習した。 ・例会(10月15日：参加者12名) ナイチンゲール著「救貧覚え書」を読み解き、はじめて「救貧院」について説明を受け討論した。 ・例会(11月9日：参加者12名) ナイチンゲール著「救貧覚え書」を読み解きながら、討論した。 ・例会(12月17日：参加者12名) ナイチンゲール著「救貧覚え書」の学びを討論し、振り返りながらまとめた。 ・例会(2020年3月22日)(延期) 新型コロナウイルス感染症への対応により延期 ナイチンゲールの三大覚え書「看護覚え書」「病院覚え書」「救貧覚え書」からの学びを討論する。 (英国研修の感想) ・執筆活動 ナイチンゲール看護思想「病院覚え書」を読み解いた集録集 2020年3月発行 *彦根・長浜市の病院・施設に送付予定
改善策 (次年度への取組)	「病院覚え書」に続いて、「救貧覚え書」を読み解いている段階である。ナイチンゲール生誕200年の記念すべき2020年の2月に「ナイチンゲールの軌跡」をたどるフィールドワークが実現する。その成果(メンバー7名参加)を5月講演会で発表するとともに、ナイチンゲールの看護思想を実践につなげるために、「ナイチンゲール看護・研究会」を継続し、看護の質の向上につとめる。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・ 彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD/SD 事業)
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質向上及び教職員の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-1 FD 研修会 (よい授業の要件について考える)
2019 年度の具体的な活動	PF 参加校の教育の質向上のため、大学入学後の学習環境に早期適応させ、教育効果を高める教育方法について考える研修会を開催した。 「互恵的関係にもとづく大学の授業デザイン」をテーマに、講義手法の改善と科目担当教員間の意見交換の場として、東海学園大学スポーツ健康科学部の水野正朗准教授によるワークショップを実施した。 【テーマ】「互恵的関係の構築について学ぶ」 【日 時】2019 年 8 月 26 日 13 時～14 時 30 分 【場 所】長浜バイオ大学 アクティブラーニングルーム 1 【講 師】水野 正朗 氏 (東海学園大学 スポーツ健康科学部 准教授) 【主な内容】 ・ 互恵的関係 (相互協力関係) を構築するためのいくつかの工夫 ・ 協同学習を成立させるための基本条件 ・ 学びの目標 (ゴール) の転換 ・ 教材研究の必要性 (コンテンツ×学習者×教育方法×教師) ※参加者の意見交換のためにワークショップ形式で実施した。
実績 (成果)	参加教職員数 41 人、運営教職員数 6 人 参加団体：滋賀文教短期大学、聖泉大学、長浜バイオ大学 内容は、教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発

	及び改善に向けたものであり、専門科目を担当する教員間で講義手法の改善に関する意見交換の場が持たれ、活発な意見交換がなされた。 研修終了後に実施したアンケートには多数の回答があり（29人）、自由記入欄にも様々な感想・意見が寄せられた。肯定的な感想が多くを占め、「（講義の）次回の予告」を通じた学生との対話をテーマにしてほしい等、本事業の今後の取組みに有益な情報も得られた。
改善策 （次年度への取組）	本事業の継続的な実施に際して、再参加が見込まれる積極的教職員層に、如何に有益かつ新鮮な研修を提供できるかが大きな課題である。今後研修テーマを慎重に選定する。 また未参加の教職員層を開拓するためには、研修内容の早期の告知や、参加者募集期間の十分な確保も重要であると考えられ、今後実現に努力する。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD/SD 事業)
取組事業概要	・彦根市・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会(共通 FD/SD)を設ける。
活動指標 (KPI)	・共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	3・4・8・9
取組事業 No.	C-4-2 共同 FD 研修
2019 年度の具体的な活動	本年度、聖泉大学で実施した下記の FD/SD 研修会について、プラットフォームに公開し、プラットフォーム事業として実施した。 演 題：「現象学的に人間を理解する」 講 師：大阪大学大学院 教授 村上靖彦氏 日 時：2019 年 8 月 8 日(木) 13:00～15:00 場 所：聖泉大学 455 教室
実績(成果)	・全学 FD 委員会(6 月 25 日)において、プラットフォームに公開し、同事業として実施することが決定 ・彦根長浜地域連携協議会(6 月 28 日)において、案内チラシを各機関に配布、申し込み〆切(7 月 31 日) ・8 月 8 日研修会 「現象学的に人間を理解する」をテーマに大阪大学大学院村上靖彦教授を講師として迎え、大阪市西成区からみた地域の子育て支援を題材として研修会を行った。 参加者：79 名(聖泉大 64 名・長浜バイオ大学 2 名・滋賀文教短大 5 名・滋賀県立大学 7 名・学生 1 名)
改善策 (次年度への取組)	本学 FD 委員会において、研修会での講演内容をあらかじめ固めたうえで候補者を絞り込む。 次年度の案内用チラシには講演の目的を明確に掲載するなどの工夫を加え、同研修会への参加者増に繋げたい。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD/SD 事業)
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-3 SD 研修会 (大学と地域との関わりについて)
2019 年度の具体的な活動	少子化、人口減少等、特に地方が直面する課題は多い。その課題において地方を拠点とする大学が地域と共にどのように地方の魅力を発信して行くのか、また大学の性質上他の教育機関よりも地域における窓口を広げる事ができることにより。どのように地域と関わりを持つことが出来るのか、そのためには大学の組織をどのような形に持っていくことが必要であるか、教育と大学の組織の観点から考え、本プラットフォームの今後の活動へのヒントとなるように、SD 活動を実施した。 【テーマ】 「大学と地域との関わり方について～西南まちづくりラボを例に～」 【日 時】2019 年 9 月 18 日 (水) 13:30～15:00 【講 師】西南学院大学 教授 小出 秀雄 先生 【主な内容】 ・大学と地域との連携 (導入・先駆例) ・リアルとネットを組み合わせた連携「姫浜西南大学まち」(2015 年度後期～2018 年度) ・チームで取り組む大学・地域連携「西南まちづくりラボ」(2019 年度) ・学生が得ること、地域が得ること・地方大学が地域と関わる際の課題
実績 (成果)	①実施概要 本研修においては「大学と地域との関わり方について～西南まちづくりラボを例に～」をテーマとして、今後の PF の地域連携の在り方について、他の地域の取組を知ることによって PF 運営教職員が幅広い知見を得て運営することが出来るようにすることに資するために実施をし

	た。内容に関しては講師の講演及び講演内に質疑応答も交えて実施された。研修終了後成果・実績を測るため、アンケートの実施を行った。 ②広報 8月8日付で彦根長浜地域連携協議会にチラシをメールにて送付 環びわ湖大学・地域コンソーシアムの協力のもと会員大学にも送付 募集締切を2019年9月11日とした。 ③参加者（45名） 【内 訳】 滋賀文教短期大学：28人 滋賀県立大学：1名 聖泉大学：7名 長浜バイオ大学：5名 びわこ学院大学：2名 環びわ湖大学・地域コンソーシアム：1名 長浜市：1名
改善策 （次年度への取組）	本年度は、3大学でそれぞれFD/SD研修を実施した。各大学の特色を生かした内容となっていたが、特に本PFの大きな課題解決につながるテーマ設定が一定部分でしかなされていなかった。 次年度に向けて、本WGからのみではなく、他のWGの意見等も踏まえながら、より本PFを実施していくうえで有益となるようなテーマ設定のFD/SD研修会を次年度も実施していきたい。 まだ、具体的には決定していないが、例えば本PFの基本理念である「SDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出」のSDGsについて本PFに関わる者が、SDGsに対しより理解を深めるようにすることが出来るようなテーマ設定、日本国内におけるPF関連に関しては日本私立学校振興・共済事業団の「大学改革を成功に導く特色ある取り組み事例集」などから情報を収集することも出来ることから、例えば、諸外国においての大学連携の在り方などを知り、国内の他のPFにないような特色あるPF運営に資するような、テーマ設定も検討していければ良いと考える。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD/SD 事業)
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-4 SDGs シンポジウム
2019 年度の具体的な活動	彦根長浜地域連携協議会の事業推進をサポートするため、SDGs やこれを利用した社会の活性化をテーマに、NPO 法人持続可能管理協会びわこ理事長の今村忠彦氏が講演を行った。 【テーマ】「SDGs を利用した地域の活性化」 【日 時】2019 年 6 月 7 日 (金) 13:30-15:00 【場 所】長浜バイオ大学 中講義室 6 【講 師】今村 忠彦 JPSMS Principal Assessors 環境省登録 環境カウンセラー、CESA プログラム環境防人マスター、NPO 法人 持続可能管理協会びわこ理事長、NPO 法人 滋賀環境カウンセラー協会理事
実績 (成果)	講演会参加者数 61 人 (大学関係者等内訳) ・長浜バイオ大学 (教職員+学生) [29 人]・滋賀文教短期大学 [13 人]・聖泉大学 [3 人]・滋賀県立大学 [1 人]・滋賀大学 [1 人]・滋賀県 [2 人]・長浜市 [3 人]・環びわ湖大学地域コンソーシアム [1 人] (関係機関内訳) ・ヤマムログループ [1 人]・NPO 法人 CESA [1 人]・メニックス [2 人]・丸橋建設 [1 人]・エコリサーチ [2 人]・JPSMS 事務局 [1 人] 講演内容

	MDGs から SDGs への変遷及び SDGs と地域の関わり、目標達成手段を考えると時のリスクアセスメントについて解説が行われた。近江商人が古くから大切にしていた「三方よし」の理念と SDGs の理念には共有された価値観があることを、講師の経験をもとに講演された。プラットフォーム事業に関わる連携機関等の参加者にとって SDGs の概念を習得する良い機会であった。
改善策 (次年度への取組)	SDGs の取組が地域課題をどのように解決するかについて事例に基づいた具体的な説明があると、より一層の理解が進んだように感じた。テーマはあらかじめ大学教職員からヒアリングを行い、教育の質の向上や教職員の質の向上に、より相乗効果をもたらすようなストーリーづくりについて事前に講師と相談させていただく方法も効果的だと思われる。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。(2023 年度評価) ・彦根・長浜連携協議会に参加する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上増加する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD/SD 事業)
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-5 初等教育懇話会
2019 年度の具体的な活動	地域の初等教育における現状と様々な取り組み、課題などについて情報を共有し、プラットフォームを形成する連携機関がどのようにして地域の初等教育に関与し、地域の教育力向上に協力できるかについて議論する教職員等の参加型の懇話会を設けた。 【テーマ】「初等教育懇話会」 【日 時】2019 年 7 月 26 日 (金) 11:00-12:00 【場 所】長浜バイオ大学 セミナー室 6 【講 師】織田 恭淳 氏 滋賀県内の中学校教諭を経て滋賀県総合教育センター、長浜市教育委員会、滋賀県教育委員会。長浜市北中学校校長。現在、長浜青少年センター所長 滋賀県の学力格差、生徒指導、人材育成、学校経営、進路状況を以下の資料による説明及び参加者との質疑応答形式でのディスカッションを行った。 ・学力 - 平成 30 年度全国学力学習状況調査結果 ・生徒指導 - 長浜市少年非行の状況、平成 28 年度滋賀県不登校児童生徒数調査 ・人材育成 - 滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標 (教諭)、平成 30 年度滋賀県公立高校教員年齢構成

実績（成果）	参加者 19 人（座談会形式） セミナー室での少人数による座談会形式のため、講師及び参加者からは忌憚ない意見が多く出された。滋賀県内の初等・中等教育の課題及び問題点が、高等教育に非常に強く影響を及ぼしていることを参加者全員が共有できたことは有意義であった。講師からは、地域の初等・中等教育の課題や問題を解決するためには地域が連携・協力して取り組まないと解決しないとの説明があり、彦根長浜地域連携協議会は既に 10 機関が連携しており、地域の課題に対してスムーズな協力体制のもとで地域の教育問題に対する解決方法を提案してもらいたいとの話があった。
改善策 （次年度への取組）	滋賀県の初等・中等教育が抱える持続的な諸問題を連携協議会が継続可能な体制で取り組むことができれば、各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に大いに役立つことが期待される。 テーマや議題による側面はあるが、参加者が疑問に感じたことをその場で発言できる座談会形式やワーキング・ディスカッション形式は継続していくことが望ましい。

③ 総評

まず全体的な総評として、各事業に関して概ね計画通り実施をすることが出来た。特に達成目標である「地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立」という面において、今までつながりの薄かった各大学や、各団体においてプラットフォームを通じてつながることに大まかではあるが本年度格子を作ることが出来たのではないかと考える。6つの取組事業のKPI及びそれぞれの達成度合い等に関しては後述の通りである。

「SDGsをテーマとした共同講義事業」における活動指標（KPI）である「SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。」について、既存の科目をプラットフォーム事業として実施し、達成をしたと考えられるが、次年度以降は新規の科目としての立ち上げの必要性が感じられるため、目標達成に向けての課題があるとの評価と考える。

「単位互換事業」における活動指標（KPI）である「単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。」について、1件の事業を実施した。2018年度比で11名の増加となったため、初年度としてはKPIの達成とまではいかなかったが、概ね目標に向けた導入が出来たと考える。次年度以降新規科目の設定や、参加学生において大学の偏りがあったため、広く周知し参加学生の枠を広げていきたいと考える。

「幼・小・中・高校生への学習支援事業」における活動指標（KPI）である「幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。」について、2件の学習支援活動を実施した。最終的な目標である5件以上にまだ到達していないが、初年度としては概ね目標を達成できたと考える。

「地域内進学促進事業」における活動指標（KPI）である「プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。」について、本年度は高校生向けの大学説明会を実施するにあたっての、情報収集や、実施方法等の意見交換を行う会議を持ち、次年度に向け実行委員会や、運営委員会等の立ち上げをし、共同の大学説明会等の実施につながる布石を打つことが出来たことより、次年度に向けて目標を達成できるように事業を進めていきたい。

「地域人材活性化支援事業」における活動指標（KPI）である「社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。」について、本年度は6講座の実施を行うことが出来た。KPIに対し、完全に目標を達成できていることから、次年度に関してはこの講座数を継続することはもちろんのこと、そのKPIにとどまらず、講座数を増やしていくことの検討を進めていきたい。

「共同FD・SD事業」における活動指標（KPI）である「共同FD/SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。」について、まず、研修実施回数に関しては3回実施することが出来た。また、研修以外にシンポジウム形式で1回、懇話会を1回実施することが出来た。回数に関しては概ね目標を達成することが出来た。しかしながら、今回FD/SD研修を実施するにあたり、「各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上」を測る明確な尺度を設けていなかったため、アンケート等の実施は研修によっては行っていたものの、検証することが非常に難しい結果となってしまった。次年度以降に関して、「向上」をどのような方法で測るのか、等の検討が必要となってくるため、その課題を解決しながら事業を進めていきたい。

全体の反省点として、本プラットフォームで事業を実施していくことは初の取組ということもあり、各課題に対し取組事業自体相互のつながりが薄く、各々の事業において共同で実施できたことは大きな一歩はあったが体系だっで行うことが出来たかと言えば疑問が残る。今後はその各々の取組事業自体に繋がりをもたせ、より体系的に各課題に取り組めるような体制づくりを次年度以降進めていく必要があると考えられる。

(4) ワーキンググループD

① 活動概要

ワーキングDの取組は、産業振興に向けた産官学連携（WG-A）、地域コミュニティの活性化（WG-B）、地域を担う次世代人材の育成（WG-C）、それぞれのワーキンググループ全体に関わる事業管理及び情報発信を担っている。

具体的には、各ワーキンググループの事業進捗状況の確認、協議会ホームページの作成・運営、ならびに成果報告会・成果発表会へ向けた事業の実施状況の取りまとめと開催準備等を行っている。

1) 各ワーキンググループの事業進捗状況の確認

各ワーキンググループの取組事業が事業計画通りに実施出来るよう、定期的に取り組事業の進捗状況の確認及び予算の執行状況を確認している。

取組事業の進捗状況確認（9月末・12月）

予算執行状況の確認（12月）

2) 協議会ホームページの作成

彦根長浜地域連携協議会の概要、中長期計画の公表、中長期計画に基づく各WGが取り組む具体的な事業の情報発信をするために、ホームページを作成し公開している。

3) 成果報告会

成果報告会に向けた取組として、WGリーダー校で報告書の様式を決定した。そして連携機関の実施事業について具体的な活動内容の報告及び実績数値を含む活動成果についての取りまとめを行っている。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	D. 事業管理
達成目標	協議会で取り組む事業の進捗及び成果等の情報発信を定期的に行う。
取組事業名	広報活動
取組事業概要	彦根長浜地域連携協議会が行うすべての取組事業について、取組事業内容や取組成果を広く情報発信するために、協議会 HP を開設し、定期的な情報発信を行い、彦根長浜地域連携プラットフォーム事業の成果物等を情報提供できる基盤を整備する。
取組事業 No.	D-1-1 協議会ホームページの作成
2019 年度の具体的な活動	協議会 HP を開設し、彦根長浜地域連携協議会の概要、中長期計画の公表、中長期計画に基づく各 WG が取り組む具体的な事業計画、進捗状況、取組成果を HP に記載し、地域の発展へ向けた取組を通して彦根・長浜地域の魅力と活気ある地域社会を創出に向けた情報発信を行う。
実績（成果）	彦根長浜地域連携協議会の概要、中長期計画の公表、中長期計画に基づく各 WG が取り組む具体的な事業計画については、2019 年 9 月末までに、長浜バイオ大学内に協議会専用ページを作成し、情報公開を行った。 協議会 HP は、本協議会の取組が HP 閲覧者に伝わるようコンテンツ内容の検討を行い、2020 年 11 月にプレリリース、2020 年 2 月より本格稼働し始めた。 広報活動の一環として、2020 年 3 月 22 日開催の地域住民向け成果発表会の告知をチラシ配布だけでなく、QR コードを活用し HP と連動した形での広報を行った。
改善策 （次年度への取組）	次年度へ向けての取り組み ○「トピックス」への掲載基準の明確化 ○各大学 HP との連携方法 ○各取組事業の取組成果に対する情報発信方法 ○チラシ配布等、他のプロモーション活動との連携 上記 4 点について検討を進める。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	D. 事業管理
達成目標	彦根長浜地域連携協議会で実施した事業の成果をまとめ、情報発信を通じて地域の活性化に役立てる。
取組事業名	成果報告会・成果発表会の企画・運営管理
取組事業概要	彦根長浜地域連携プラットフォーム事業で取り組んだ事業について、ワーキングごとに取組成果を取りまとめ、地域課題の解決のきっかけとなる取組状況を広く情報発信をすることを目的に、成果報告会を開催する。成果報告会実施後、成果報告書を作成し、協議会 HP を通じて情報発信を行う。
取組事業 No.	D-1-2 成果報告会・成果発表会
2019 年度の具体的な活動	2020 年 3 月に開催する成果報告会及び成果発表会の実施に向け、以下の業務を行う。 【WG の取組状況及び取組成果の把握・とりまとめ】 第 1 回 2019 年 9 月末 実施 第 2 回 2019 年 12 月末 実施 1) 進捗状況把握方法の検討・統一化 ・取組事業にかかる進捗状況の統一フォーマットの協議及び WG リーダー校による事業の進捗状況の把握 (9 月 30 日時点) ・WG リーダー校へ報告書の作成依頼(12 月 20 日付) 2) 予算の執行状況 ・2019 年 11 月 PF 事業の予算執行状況 (12 月 20 日時点) を把握するためリーダー校に依頼 【成果報告書の準備】 成果報告書の作成に当たり、成果報告書の様式及び掲載内容の検討を行う。 【成果報告会】 本年度の本協議会の取組状況を協議会メンバー及び外部評価委員に報告を目的とした報告会の実施 ・日時：2020 年 3 月 5 日 (木) 13:30-16:40 ・場所：長浜バイオ大学・アクティブラーニングルーム 1 (命翔館 3 階) 〈プログラム〉 1) 全体報告 (蔡 晃植 彦根長浜地域連携協議会長) 2) 各 WG 総括 (WG-A, WG-B, WG-C) 3) 各大学及び自治体・産業界からの PF 事業での実施例 4) 外部評価委員による講評 (仁連孝昭氏, 北川貢造氏, 田中紹貴氏, 長屋光彦氏)

	【成果発表会】※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 本年度の本協議会の取組状況を地域住民に広く知ってもらうために、成果発表会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症への対応により中止した。 ・日時：2020年3月22日（日）14:00-15:45（中止） ・場所：彦根勤労福祉会館・大ホール （彦根市大東町4-28） ＜プログラム＞ 1）主催者挨拶・全体報告 （蔡 晃植 彦根長浜地域連携協議会長） 2）来賓挨拶（大久保貴 彦根市長） 3）活動体験トピックス「事例報告会」 4）来賓挨拶（藤井勇治 長浜市長） 5）講演会 （鈴木賢一氏 サントリーフラワーズ株式会社）
改善策 （次年度への取組）	・開催時期が年度末に集中するため、連携機関の出席状況等の調整が難航することから、成果報告会及び成果発表会の時期の検討が必要

③ 総評

1) 協議会ホームページの作成

ホームページの開設に向け、2019 年 9 月末までに長浜バイオ大学ホームページ内に協議会専用ページの作成を行った。その後コンテンツ内容を再検討し、本協議会独自のホームページを 2019 年 11 月にプレリリース、2020 年 2 月に本格稼働している。

ホームページの公開によって、彦根・長浜地域の魅力と活気ある地域社会の創出に向けた、本協議会の概要、中長期計画、各 WG の取組み、ならびに様々な公開イベントのホームページからの告知が可能となった。今後、彦根・長浜地域をはじめとするたくさんの方に、本協議会に更に高い関心を持ち、期待をして頂けるように、ホームページの充実に取り組む。

そのためにホームページの管理方法、各連携機関からの情報提供の受け方について、効率的な運営に関する検討を継続的にしていきたい。

2) 成果報告会・成果発表会

外部評価委員が参加した外部評価委員会を兼ねた成果報告会（2020 年 3 月 5 日）を行う。本年度の取組事業の総括及び協議会を構成するすべての連携機関による実施例報告を行い、取組に対する評価が外部評価委員より提言された。

本協議会の取組事業の成果を、地域住民に向け情報発信をすることを目的に成果発表会（3 月 22 日）を彦根勤労福祉会館にて予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。成果発表会は、私立 3 大学による実例報告の他、地域住民に広く参加いただけるような講演会を含むプログラム内容を予定していた。

次年度以降は、地域住民向けの成果報告会は、年度末に行うのではなく当該年度の事業終了後の開催を検討し、発表内容の充実を含めて改善を図っていきたい。

（５）協議会

① 活動概要

2018 年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ 5 に「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム」として申請を行うため、2018 年 8 月に彦根・長浜地域の大学・短期大学・自治体・産業界等の 10 機関による彦根長浜地域連携協議会（以下「協議会」という。）が設立され、2019 年 2 月に採択された。

協議会は、事業連携協力、基本方針の策定及び中長期計画の立案・実施、相互連携機関の交流等について協議を行うとともに、１）連携協議会の開催、２）会計監査等、３）外部評価委員会を運営し、円滑なる連携事業の推進を図ることを目的としている。

１）連携協議会の開催

連携協議会が取り組む事業計画のスムーズな運営を実施するため、連携機関を構成する協議会員が定期的に会議を開催し、審議・承認を行っている。2019 年度は 5 回開催し、協議会員の出席率は平均 76%（出席者合計 57/定数合計 75）であった。

２）会計監査等

連携協議会監査規程に基づき、取組事業の適切な業務の執行及び予算執行が行われていたかを確認するため、監事による業務監査及び会計監査を行う。業務監査では、協議会の事業に係る日常業務の執行が、法令や協議会諸規定に準拠して合法的かつ合理的・効率的に行われているかを監査する。会計監査では、協議会の事業が正当な証拠書類により事実に基づいて処理され、帳票が法令及び協議会会計処理規程及び会計処理規程実施規則等の諸規定に従い適正に記録されているか否かを検証するとともに、協議会財産の管理状況を監査する。監事は、3 月 5 日開催の成果報告会に出席し、事業の取組内容を確認し、2020 年 4 月に業務監査及び会計監査を実施する。

３）外部評価委員会

2019 年度に実施した事業ごとの自己評価を含めた成果報告書を取りまとめたのち、地方自治体・産業界等の外部評価委員 4 名による外部評価委員会を、3 月 5 日に開催し、事業成果への評価を行った。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	協議会
取組事業名	彦根長浜地域連携協議会運営
取組事業概要	2018 年度に地域課題を解決するために産官学が一体となり取り組む事業として彦根長浜地域連携協議会が締結された。彦根長浜地域連携協議会が立案した中長期計画で取り組むとした、各事業の円滑な事業運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が定期的に集まり、地域連携協議会が取り組む事業のスムーズな運営に必要と思われることについて協議を行う。
取組事業 No.	E-1-2 連携協議会の開催
2019 年度の具体的な活動	2018 年度に締結された彦根長浜地域連携協議会が中長期計画で実施する取組事業の円滑な事業運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が定期的に集まり、各年度の事業計画の立案・予算案の立案、その他地域連携協議会に必要と思われることについての審議・承認を行う。
実績（成果）	彦根長浜地域連携協議会開催状況 2019 年 5 月 14 日 第 1 回 彦根長浜地域連携協議会 ・出席 10 名（定数 15 名） 【承認事項】 （１）議事進行 （２）2019 年度の協議会員及び事務局員の選任 （３）2019 年度の協議会長の選任 （４）2019 年度の協議会 WG 構成員の選任 （５）会計処理規程、会計処理規程実施規則、公印取扱規程 （６）各 WG で提案された KGI・KPI の決定 2019 年 6 月 28 日 第 2 回 彦根長浜地域連携協議会 ・出席 11 名（定数 15 名） 【承認事項】 （１）2019 年度彦根長浜地域連携協議会事業計画・予算計画 （２）外部評価委員候補者の選定 2019 年 8 月 1 日 第 3 回 彦根長浜地域連携協議会 ・出席 13 名（定数 15 名） 【承認事項】 （１）事業概要及び対応 SDGs の承認及び予算変更 （２）中長期計画及びロードマップ変更 （３）個人情報保護規程

	(4) 監査規程 (5) 外部評価委員の決定 2019年9月26日 第4回 彦根長浜地域連携協議会 ・出席12名(定数15名) 【承認事項】 (1) タイプ3(プラットフォーム型)の申請 (2) 監事の決定 (3) 外部評価委員の決定(追加) (4) タイプ5中長期計画の修正 2019年11月29日 第5回 彦根長浜地域連携協議会 ・出席11名(定数15名) 【承認事項】 (1) 各WGの事業進捗状況 (2) PF事業の予算 (3) 事業進捗報告フォーマットの統一 (4) PF事業成果報告会及び発表会
改善策 (次年度への取組)	中長期計画の円滑な事業の実施を引き続き支援するとともに、協議会に自治体の長が可能な限り定期的に参画しやすい体制の構築に取り組んでいく。 定期的な協議会の開催に向け、事前に行うメールを中心とした連絡の仕方について、業務負担の軽減を目的とした運用改善を検討していく。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	協議会
取組事業名	中長期計画および事業計画に則り、協議会運営及び各取組事業において、適切な予算の執行、会計処理等が行われていたかを監査する。
取組事業概要	2019 年度における協議会運営及び各取組事業における適切な予算執行及び会計処理等について監事を設け、監事が業務監査及び会計監査を行う。 なお、監事については、以下の方に担っていただいている。 ・堀川 英雄 氏（学校法人聖泉学園 監事）
取組事業 No.	E-1-3 会計監査等
2019 年度の具体的な活動	監事の決定：第 4 回彦根長浜地域連携協議会（9 月 26 日） PF 事業成果報告会（3 月 5 日）に出席 業務監査・会計監査 2020 年 4 月（予定） 協議会への監事報告 2020 年 5 月（予定）
実績（成果）	業務監査・会計監査 2020 年 4 月（予定）に向けて、以下のことを行った。 2019 年 10 月より本協議会の会計規定に則り、会計処理を開始した。2019 年 12 月に予算執行状況の確認を行い、各 WG の個別取組予算の執行状況と今後の執行予定についてのヒアリングを行い、協議会全体の予算の執行状況を把握した。
改善策 （次年度への取組）	本年度は監事の選定が監査規程承認後の 9 月となったため事業内容及び予算状況の報告が監査直前となった。次年度については、監事への年 2 回の報告（中間報告・最終報告）を行ったのち監査を実施する。また、業務負担軽減の観点から業務の効率化についての検討を行う。

彦根長浜地域連携プラットフォーム事業 成果報告書

WG 名称	協議会
取組事業名	事業評価事業
取組事業概要	中長期計画に基づいて実施した取組事業について、成果報告会で取りまとめたワーキングごとの自己評価に対して、事業成果への評価、次年度の取組に向けた助言をいただくことを目的に外部評価委員(3 名)による外部評価委員会を実施する。外部評価委員会の提言を参考に、次年度の事業計画の改善を検討する。
取組事業 No.	E-1-4 外部評価委員会
2019 年度の具体的な活動	本年度に実施した事業について、成果報告会に向けて各ワーキングが事業成果を自己評価したのち、外部評価委員 4 名により事業成果への評価、次年度に向けた改善提案を行う外部評価委員会を実施する。 なお、外部評価委員は以下の 4 名に就任していただいている。 ・仁連 孝昭 氏(環びわ湖大学・地域コンソーシアム顧問) ・田中 紹貴 氏(滋賀銀行 営業統括部地域振興室長) ・北川 貢造 氏(長浜市 元教育長) ・長屋 光彦 氏(長浜市教育委員会 教育指導課主幹)
実績 (成果)	外部評価委員の選出：第 2 回彦根長浜地域連携協議会(6 月 28 日) 外部評価委員の決定(仁連氏、田中氏、北川氏)：第 3 回彦根長浜地域連携協議会(8 月 1 日) 外部評価委員の決定(長屋氏)：第 4 回彦根長浜地域連携協議会(9 月 26 日) 2019 年度 外部評価委員会開催(2020 年 3 月 5 日)
改善策 (次年度への取組)	より良い取組事業への改善を行うために、外部評価委員の方々への取組事業の報告時期・回数についての検討を行う。

③ 総評

1) 連携協議会

本協議会の発足に伴い、本年度は協議会規程・会計処理規程・会計処理規程実施規則、個人情報保護規程、監査規程等の諸規定の策定といった協議会運営の環境整備を図った。また、実施事業計画の策定及び予算案の策定を行った。審議・承認に多くの時間が割かれたことや、事業計画及び予算計画の立案等に対する各連携機関との共同参画が難しかったため、類似性のある事業が複数実施される事例が一部で見られた。次年度の事業計画については、各連携機関と事業計画等の情報共有を効率的に行う方法（メールの活用方法の検討）を検討した上で、本年度の事業の実施内容を振り返り、どのような課題や問題点が生じたかを協議会を通じて共有を図り、改善策を検討していく協議会運営を目指していく。

その他、協議会の運営については、自治体の長を含む協議会メンバーが参画しやすくなるよう、数カ月単位での予定を各連携機関に事前連絡するようにするといった日程調整が行える協議会体制づくりに取り組む。

2) 会計監査

連携機関が事業を共同で実施するための必要な経費を本拠出金より支出するための会計上のルールを決定する規程案を協議会で承認し、会計処理規程第 31 条に定める監事の選定を行った。監事は、業務監査及び会計監査を行うこととし、協議会等に出席し意見を述べることができるとともに、監査報告書の作成・報告を義務づけている。

2019 年度予算は、連携機関から提案のあった事業計画及び予算内容を協議会で承認後、事業を実施し予算を執行したが、当初予算を超過する事業が発生し、協議会での事後承認となった事例があった。次年度は予算管理を十分行うことで、予算の超過差異を可能な限り発生させないように取り組む。

3) 外部評価委員会

中長期計画の実施状況を評価する体制づくりと評価結果を反映させるために、外部評価委員による外部評価委員会を実施する。外部評価委員は、自治体および産業界等の第 3 者とし、連携機関からの候補者の推薦のより 3 名の委嘱が決定した後、自治体からの評価をより一層反映させるために自治体の評価委員を新たに委嘱し 4 名とした。

本年度は外部評価委員に対する事業報告及び委員会の開催が年 1 回しか行われていないため、事業の進捗状況を実施期間中に報告することができなかった。次年度は、外部評価委員に事業進捗状況の報告を定期的に行うことを検討する、または委員の協議会への出席を依頼するなど、外部評価委員が定期的に事業進捗状況を把握できる環境整備に努めたい。

（６）協賛事業

① 活動概要

彦根長浜地域連携プラットフォームの各連携機関が独自に取り組み、次年度以降、本協議会事業として取り組む可能性がある事業を協賛事業とした。そのため協賛事業は各連携機関独自の事業計画及び予算に基づいて実施されている。

WG-A の産官学連携事業及びインターンシップ・採用支援事業では、地域資源を生かした 6 次産業化促進事業及びローカルインターンシップに取り組んだ。WG-B の国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業及び地域住民に向けた健康増進支援事業では、春期公開講座、長浜曳山まつり、中国語講座、町家プロジェクト、クラフト体験、いきいき健康フェスティバルを実施した。

② 具体的な取組状況・成果・課題

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	協賛事業（取組 1（産官学連携事業））
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標（KPI）	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9
取組事業 No.	F-1-1（地域資源を生かした 6 次産業化促進事業）
2019 年度の具体的な活動	小谷城スマート IC 栽培実験農場で、長浜バイオ大学等が連携し、地域伝承野菜「尾上菜」のブランド化を推進する事業を実施している。 長浜バイオ大学は、優良種の選定に向けて調査研究を行い、長浜農業高等学校は、栽培マニュアルの作成に向けて試験栽培を行う。また、滋賀調理短期大学校は、尾上菜の情報発信と認知度向上を図るため、新レシピの開発を行う。
実績（成果）	2019 年 7 月 7 日 長浜バイオ大学で「小谷城スマート IC 周辺で取り組む 6 次産業化セミナー」を開催し、事例発表を行った。本セミナーには、関係者および市民合わせて 140 名が参加された。 2019 年 11 月 20 日 滋賀調理短期大学校は、尾上菜を使った 19 種の新たなレシピを開発した。11 月 20 日に開催された同校料理展示会で、パネル化した新レシピを掲出した他、各学生（21 名）が尾上菜の特徴を活かした料理を一品創作し、来場者に尾上菜の情報発信を行い、認知度の向上を図った。 2019 年 11 月 23 日

	郷土料理研究家の肥田文子氏を講師に迎え、「長浜学びのカレッジ」を湖北中学校で開催した。受講生 17 名は、尾上菜の特徴や歴史、調理法について講義を受けた後、尾上菜を使った調理実習（2 品）と試食を行った。 2019 年 1 月 14 日 郷土料理研究家の肥田文子氏を講師に迎え、長浜農業高等学校で尾上菜を使った調理実習を開催した。生徒 11 名は、尾上菜の特徴や歴史、調理法について講義を受けた後、同校農場から収穫した尾上菜を使って、調理実習（4 品）と試食を行った。 次年度の方針 引き続き、長浜バイオ大学や長浜農業高等学校、滋賀県調理短期大学校と連携し、優良種の選定や栽培マニュアルの作成、新レシピの開発を進める。また、加工業者と連携した加工品開発と商品化を進め、地域伝承野菜の情報発信の強化を図り、認知度向上と生産と消費の拡大に繋げる。
--	--

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化（2023 年度評価） ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）
取組事業名	協賛事業（取組 2（インターンシップ、採用支援事業））
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標（KPI）	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	F-1-2 （ローカルインターンキャンプ）
2019 年度の具体的な活動	湖北の企業と滋賀県内外の学生との交流の場をつくり、湖北の企業での働き方、文化や人々に触れることを通して、学生の就活時に湖北企業が選択肢の一つとなることを目的としている。また、湖北企業が学生を受け入れる体制を整え、採用基盤を強化することによる将来的な人材確保を目的としている。 大学 2～4 年生を対象とした宿泊型インターンシップを実施した。23 名が参加し、4 泊 5 日で合宿所に泊まり込み、2～3 人 1 チームで同一企業に 3 日間通った。就労体験だけでなく、企業の採用戦略を考え、最終日にプラン提案するなどテーマ・課題を通して企業理解を深めるカリキュラムを実施した。また、広報周知を兼ねたプレイベントとして、「滋賀、東京で地元での就職を考える」をテーマにしたセミナーを 6 月に開催した。
実績（成果）	開催内容 5 月 22 日 参加企業募集説明会 6 月 15 日 プレイベント「Now on LOCAL!」 滋賀 チカ守山開催 11 名参加 6 月 29 日 プレイベント「Now on LOCAL!」 東京 TIP*S 開催 14 名参加 7 月 12 日 参加企業説明会

	8 月 7 日 参加学生 WEB 説明会 9 月 9 日～13 日 ローカルインターンキャンプ（4 泊 5 日）開催 参加企業 8 社 参加学生 23 名 ○本年は参加事業者数が 8 社となり、2018 年と比べ減少した。 また、本事業は本年度で 3 回目の実施となるため、次年度以降はより地域の雇用につなげるべく、見直しを行う。
--	--

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	協賛事業（取組 1（生涯学習拠点整備事業））
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標（KPI）	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）
対応 SDGs 番号	3・4・11・15
取組事業 No.	F-1-3 春期公開講座
2019 年度の具体的な活動	「県立大学で『人間学』を学ぶ」をテーマに、全 4 回（各学部）の講座を実施した。対象は一般。受講料は無料。定員は 300 名。 1. テーマ 「県立大学で『人間学』を学ぶ」 2. 会場 滋賀県立大学 A2-202 教室 3. 各回の内容 （1）5 月 18 日（土）「最近話題の『ジャポニズム』とファッション史」112 名 講師：滋賀県立大学 人間文化学部 生活デザイン学科 准教授 横田 尚美 （2）5 月 25 日（土）「子どもの目線で医療を考える」119 名 講師：滋賀県立大学 人間看護学部 人間看護学科 教授 古株 ひろみ （3）6 月 1 日（土）「かたちと強さと壊れ方」100 名 講師：滋賀県立大学 工学部 機械システム工学科 教授 田邊 裕貴 （4）6 月 8 日（土）、29 日（土）「普通種と希少種：違いはどこにあるのか？」112 名 講師：滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科 教授 西田 隆義 4. 活動報告 2018 年 12 月 18 日 学部へ講師選定依頼 2019 年 1～2 月 講師、各回テーマおよび概要決定

	2 月 チラシ印刷 3 月 広報、受講者募集（～4/22） 5/18～春期公開講座実施 2020 年 12 月 20 日 2020 年度実施分学部へ講師選定依頼 1 月講師・テーマ内定、2 月下旬チラシ作成、3 月上旬チラシ納品、広報開始
実績（成果）	1. 参加者 各回の参加者は以下のとおりであった。 5 月 18 日（土）112 名 5 月 25 日（土）119 名 6 月 1 日（土）100 名 6 月 8 日（土）、29 日（土）112 名 延べ 443 名 2. アンケートによる総合満足度 平均 88.2 点 【参考：2018 年度】 1. 参加者 第 1 回（5/12）147 名、第 2 回（5/19）182 名 第 3 回（5/26）129 名、第 4 回（6/2）173 名 延べ 631 名 2. アンケートによる総合満足度 平均点 90.7 点

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標（KPI）	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	5・8
取組事業 No.	F-1-4 長浜曳山まつり
2019 年度の具体的な活動	長浜市で毎年 4 月に開催され京都の祇園祭、高山の高山祭と並んで日本三大山車祭の一つに数えられる長浜曳山祭に山車の曳き手ボランティアとして学生・教職員が参加した。
実績（成果）	日時：2019 年 4 月 14, 15 日 参加者：延べ 47 名 内容：曳き手ボランティアとして学生・教職員が参加。 ユネスコ世界無形文化遺産に登録され、本学の所在地である長浜で古くから受け継がれてきた祭を実際に体験した。参加した学生からは、ここでの出会いを今後の地域活動に活かそうと思うと話した。

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標（KPI）	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4・17
取組事業 No.	F-1-5 中国語講座
2019 年度の具体的な活動	（中国語講座/初級・中級） 彦根市日中友好協会と聖泉大学の共催交流事業として、2018 年度より開始し、2019 年度も継続して実施した。 2019 年度は、4 月（第 4 期）から 2 月（第 8 期）まで、年間 5 回（期）実施した。 <趣旨> 語学や文化習慣の学習を通じて、地域住民と地域に住む留学生や外国人住民との交流、相互理解を促進する。 <募集区分> 1. 初心者のための中国語基礎講座（全 4 回）・初級 （中国語の発音から文化習慣の話を交えたノンビリしたコース） 2. 中級者のための中国語強化講座（全 4 回）・中級 （「中国語検定」準 4 級・4 級の過去問題の解説や会話練習を中心に実施） <講 師>唐楽寧（聖泉大学人間学部教授） <受講料>1,000 円（日中友好協会の交流事業代） <定 員>20 名
実績（成果）	4 期（4 月 6 日、13 日、20 日、27 日）

	初級 9:00～10:30 参加者 12 名 中級 10:40～12:10 参加者 10 名 5 期（5 月 11 日、25 日、6 月 8 日、22 日） 初級 9:00～10:30 参加者 14 名 中級 10:40～12:10 参加者 12 名 6 期（7 月 6 日、20 日、8 月 10 日、24 日） 初級 9:00～10:30 参加者 8 名 中級 10:40～12:10 参加者 10 名 7 期（10 月 26 日、11 月 9 日、23 日、12 月 7 日） 初級 9:00～10:30 参加者 7 名 中級 10:40～12:10 参加者 9 名 8 期（12 月 21 日、1 月 18 日、2 月 8 日、2 月 22 日） 初級 9:00～10:30 参加者 7 名 中級 10:40～12:10 参加者 8 名 次年度も彦根市日中友好協会と連携し、本年度と同様の規模で実施する予定。
--	---

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標（KPI）	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	F-1-6 町家プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	地域住民向けのイベント開催 （七夕・クリスマス等） 2019 年 7 月 6, 7 日 七夕イベント 2019 年 11 月 9 日 湯田小学校科学体験教室
実績（成果）	○七夕イベント 日時：2019 年 7 月 7 日（日） 場所：長浜バイオ大学町家キャンパス 参加者：約 40 名 内容：観光客向けに笹飾りへの短冊記入 ○湯田小学校科学体験教室 日時：2019 年 11 月 9 日（土） 場所：長浜市立湯田小学校 参加学生数：14 名 参加児童数：26 名 内容：実験 1 オリーブオイル・ごま油・キャノーラ油をプラスチックコップに注いで 3 層に分ける実験。 実験 2 油・メントス・炭酸水を使ってイルミネーションの実験 児童の感想：実験 1 では油が重さによって 3 層に分かれること

	に驚いた。実験２では下からライトを当てるとイルミネーションになってきれいだった。科学者実験に来てよかったです。家でも同じことをしてみようかなと思います、等高評価であった。 ○その他 ・他団体の地域貢献活動へ参加
--	---

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標（KPI）	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	6・12
取組事業 No.	F-1-7 クラフト体験（琵琶湖清掃活動による廃材、建築端材を利用）
2019 年度の具体的な活動	琵琶湖清掃活動廃材や建築木材の端材を再利用したクラフト体験 琵琶湖周辺の環境問題として、浜辺に打ち上げられるゴミがあげられる。琵琶湖研究部は定期的に行う琵琶湖清掃活動中に回収されるシーグラス（琵琶湖に捨てられたガラス片が波に揉まれて角の取れた小片となり、曇りガラスのような風合いになったもの）を再利用してアクセサリやフォトスタンドのクラフト体験を地域住民向けに行う。
実績（成果）	○琵琶湖清掃活動 6 月から 1 回程度 10 名～20 名の学生で清掃活動を実施した。 ○シーグラスクラフト体験① 日時：2019 年 9 月 28 日（土） 場所：聖泉大学 参加学生：4 名 参加者（一般）：約 60 名 ○シーグラスクラフト体験② 日時：2019 年 12 月 21 日（土） 場所：長浜バイオ大学町家キャンパス 参加学生：7 名 参加者（一般）：20 名

	次年度以降も、琵琶湖清掃活動、クラフト体験をはじめとした地域貢献活動を行う予定。
--	--

彦根長浜地域連携プラットフォーム協賛事業 成果報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者を 2018 年度比で 20%増加させる。(2023 年度評価) ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
取組事業名	協賛事業（取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業））
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標（KPI）	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・11
取組事業 No.	F-1-8 いきいき健康フェスティバル
2019 年度の具体的な活動	「心と体の健康づくり」をテーマに、子供から大人まで幅広い来場者の方に、自分の健康について関心を持ち、思いやりの心をはぐくみ、健やかで心豊かな生活について考える機会となる参加型イベントであるいきいき健康フェスティバルにポスター展示（学生説明）で参加し、本イベントの参加者へ本プラットフォームの趣旨・計画を周知する。
実績（成果）	「第 10 回いきいき健康フェスティバル 2019」 日 時：2019 年 5 月 19 日（日）10:00-16:00 場 所：長浜バイオ大学 テーマ：「～幸せは心と体の健康から～」 内 容：・心と体の講演会 ・こどものサイエンス ・0 次カフェ ・体のひろば ・ちびっこひろばなど 参加人数（イベント全体）：約 10,000 人 対応数：約 10 名 本学学生がプラットフォームの趣旨・計画について、参加者を対象に行った。 今回は発足して間もなかったこともあり、ポスター展示のみであったが、大きなブースで参加できるようになるとなおい。

③総評

本年度は連携機関から提案があり、以下の事業を協賛事業として実施した。

1) 地域資源を生かした6次産業化促進事業

共同研究をきっかけとした3件以上の事業化、または商品化を2023年度に達成するために、長浜バイオ大学等の連携により地域伝承野菜のブランド化に取り組んでいる。

2) ローカルインターンシップ

就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を2030年度までに2019年度比で10%以上改善するため、湖北企業と滋賀県内外の学生とのマッチング機会の増加による人材確保を推進した。

3) 春期公開講座

幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した地域住民向けに、「人間学を学ぶ」をテーマとした公開講座を滋賀県立大学の教員が講師となり実施した。

4) 長浜曳山まつり

毎年4月に開催される長浜曳山祭りの曳き手ボランティアとして学生や教職員が参加して、地元の方々と一緒に山車を曳き、地域の方との交流を促進した。

5) 中国語講座

地域住民と地域に住む留学生や外国人住民との交流、相互理解を促進するため、彦根市日中友好協会と聖泉大学の共催交流事業として実施した。

6) 町家プロジェクト

学生の自主活動団体が地域の活性化に繋げるためのイベントの実施及び地域住民との交流を通じて、まちづくり支援事業に取り組んだ。

7) クラフト体験

長浜バイオ大学の学生サークル団体「琵琶湖研究部」が定期的に行う琵琶湖清掃活動で集められた廃材等を再利用したクラフト体験を行った。

8) いきいき健康フェスティバル

NPO法人0次クラブによる健康をテーマとしたフェスティバルを、長浜バイオ大学で実施した。心と体の健康づくりをテーマとした講演会や各種イベントの他、教員による子ども向けゲームや学生団体によるイベント等を行い、約10,000人の来場者があった。

協賛事業に関しては、各連携機関が独自に長年行われている取組や特定の地域・団体との結び付きが強いことから、次年度以降、本協議会の事業として取組実施するか否かについて検討を行う。

5. まとめ

(1) 2019 年度 全体総括

2018 年 9 月に SDGs を活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標とする、彦根長浜地域連携協議会が組織された。そして協議会の事業実施に向け、文部科学省 2018 年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ 5 の採択による後押しを受け、事業計画を策定し、目標達成に向けての第一歩を踏み出した。

2019 年度の事業は活動指標 (KPI) を定め、具体的な事業活動を策定する初年度にもかかわらず、地域課題に沿った 43 の具体的な事業活動を行うことができた。

WG-A の最終的な達成目標の 1 つである「産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化」に向けて、連携大学の研究紹介ハンドブックの発行、大学研究設備の情報共有、産官学が参加する交流会を通じて産官学のネットワーク基盤強化が図ることができ、目標達成に向けての土台作りができた。こうした取組の中から本年度に支援した 1 件の産学共同研究（養殖ビワマス飼料開発）のように、地域にあるユニークな教育資源にフォーカスすることで、プラットフォーム事業をきっかけとした「3 件以上の事業化または商品化」の実現を次年度以降につなげていけると考えている。

もう一つの達成目標である「就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する」に向け、「地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する」という活動指標 (KPI) を意識しながら、6 つの活動を実施出来た。その結果、インターンシップにおける産官学の課題認識の共有が進むだけでなく、インターンシップ&業界研究フェアでは、34 事業所と 57 名の学生が参加し、約 7 割の学生が 4 社以上、1 社あたり平均 6 人の学生が訪問する活発な取組となった。

「UIJ ターン推進事業」では、活動指標 (KPI) である「UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する」の実現に向け、UIJ ターンの実態を大学、産業界、自治体の間で共有し、各自自治体から対象となる人数を把握することが可能となった。

本年度行った就職支援事業及びインターンシップ事業、UIJ ターン推奨事業での基盤を次年度以降発展させていくことにより、人と企業の橋渡し役となって彦根・長浜地域の産業振興に寄与していくことができると考えている。

WG-B の達成目標である「地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 20 %増加させる」について、本年度は、活動件数 33 件（2018 年度 20 件）となり、2018 年度比 65%増であった。活動参加者数 2,269 名（2018 年度 631 名）となり、2018 年度比 260%増となった。新規事業が多かったため、件数や参加者数としての目標は達成することができた。

また、もう 1 つの達成目標である「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する」については、「学生の地域貢献活動報告会」に参加した学生に調

査した結果、地域連携プロジェクトに参加した学生の地域（滋賀県）への愛着度は、「愛着を持った・やや愛着を持った」を合計すると 100%の学生が愛着を持つという結果であった。このように WG-B においては、達成目標に掲げた活動件数や参加者数の達成ができています。

達成目標が達成できていることは、WG-B が地域の各種団体や地域住民と直接関わる活動であり、プラットフォームの 10 機関が協働することで、地域の生涯学習や健康増進支援において多様なプログラムが提供できたからである。WG-B は日常生活に密着した幅広い活動を展開しており、彦根・長浜地域の豊かな教育資源が存在していることの裏付けである。新規事業が多いことを考慮しなければならないが、WG-B の活動への参加者が 2,269 名と一定数獲得できたことは地域にある教育資源の活用という意味において確かな第一歩を踏み出せたと考える。

また、「彦根長浜地域連携プラットフォーム・セミナー大会&交流会」や「学生の地域貢献活動報告会&交流会」という形で、地域で活動する団体・個人が交流する交流会を、本年度より実施出来たことは、次年度以降、地域課題への取組に対する活動を発展させる際に、交流会での意見交換をきっかけとした、異なるプロジェクト同士の連携やアイデアを呼び起こす場として機能するため、次年度以降も彦根・長浜地域の活性化に寄与できると考える。

WG-C の達成目標である「地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立」という面において、今までつながりの薄かった各大学や、各団体においてプラットフォームを通じてつながることにより、大まかではあるが本年度に格子を作ることが出来たのではないかと考える。この達成目標に向けて、「SDGs をテーマとした共同講義事業」及び「単位互換事業」では、既存の科目や枠組みを活用したものではあるが、1 件以上取り組むことが出来ており、達成目標に向けた導入が出来たと捉えている。

また、「幼・小・中・高校生への学習支援事業」での 2 件の活動及び「地域人材活性化支援事業」での 6 件の活動を通じて、多様な世代に対する教育活動の展開の第一歩を図ることができたと考えている。これらの活動を次年度以降発展させていくことにより、地域住民に対する多彩な教育を提供する教育基盤の重層化につながれると考えている。

「地域内進学促進事業」では、地域内の高校生に向けて、大学が共同で大学説明会を実施するにあたっての、情報収集や実施方法等の意見交換を行う会議を持ち、次年度に向け実行委員会や運営委員会等を立ち上げることができた。次年度以降、共同の大学説明会等の実施につながる布石を打つことが出来たことより、活動指標（KPI）である「プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する」の目標達成に向けての準備が整ったと考えている。

地域内の教育基盤を支える人材の育成とその意味において、「共同 FD/SD 事業」では 5 件の活動を実施することができた。これまで各大学が独自に行ってきた FD/SD を他大学の教職員に開放することは、各大学の教職員に新たな気づきの機会となると同時に、教育課題の共有の機会となったと考えられる。次年度以降、活動を継続することで地域の教育課題の解決に寄与することになる。

以上のように、SDGs を活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標に掲げて事業をスタートした 2019 年度の活動は、概ね順調なスタートを切るこ

とができた。しかし、その一方で 1 年間活動をしたことで課題も出てきている。次年度以降、事業を継続していく中での課題としては次のようなことが考えられる。

まず、事業活動実施日の重複である。本年度は数多くの活動を実施することができたが、活動件数が多くなった結果、開催時期の集中が生じたことから運営スタッフ不足、広報活動不足といった課題が明確になった。

また、活動件数の多さは結果として事業主管機関である各大学・自治体・地域団体任せになってしまい、事業主管機関の負担ともなった。各連携機関の連携を強化するためにも事業活動の再検討が必要になる。その意味において各 WG が本年度実施した活動を振り返り、テーマに沿った体系だった事業連携といった活動の体系化を図り、持続可能な形での事業計画を策定することが求められると考えている。

その他、本年度が活動初年度だったこともあり、彦根・長浜地域の持続的な発展のために「経済・社会・環境」の 3 側面から地域活性化につながるように各取組事業で定めた SDGs への対応について、本年度の活動と概ね合致していると考えられるが、取組事業計画の段階から意識的に自己点検・評価していくことも必要であったと思われる。

以上のことから 2019 年度の事業活動は概ね順調に実施することができた。このことは SDGs を活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標に掲げて事業を行う 10 の機関の相互支援の賜物である。次年度以降も引き続き 10 の機関からの支援を受けながら、目標達成に向け事業の発展に努めていきたい。

(2) コーディネーターによる事業の検証と今後の提言

コーディネーター： 重岡 成

彦根長浜連携協議会のプラットフォーム事業（以下、PF 事業）の開始、初年度におけるコーディネーターを務めさせていただきました。本 PF 事業は琵琶湖湖北の私立大学を中心に、大学、短期大学、自治体、政財界などで、SDG を活用し、彦根・長浜地域での人材養成、地域の豊かに働ける生活、魅力と活力のある地域社会の創出を目的とするものでありますが、地域内の大学間連携の実態がわからないまま手探りでサポートのため、必要な情報提供など、さらに目標設定などで至らぬ点もあったと痛感しています。

本年度の事業取り組みを次年度以降に活かせるよう、コーディネーターとして感じた手ごたえ及び改善点をいくつか自戒も込め、以下に記しておきます。

先ず手ごたえということでは、本地域の PF 事業の取り組み方が他地域と比べて、目標達成や事業計画に沿って取り組む姿勢において、大学間での調整・協議を行い、その結果、短期間で数多くの取組事業が実施されたことは、本 PF 事業が、地域性の強い、小規模での応募での取り組みであることを活かし、かつ本地域の教育力の底力そして教育の多様さを活かした成果であると感じました。さらに、得られた多くの成果は、本事業に直接関与される教職員の皆様が事業運営に関して、各々の課題が生じた際に何度も打ち合わせを行い、解決策を共有しながら事業運営をされていることによるものであると考えます。これら姿勢（体制）は、特定の機関に運営を丸投げになりがちな事業特性を考えれば、今後の強みになるのではと感じています。

そして、協議会に参加する全ての機関において、1 年間事業を行ったことで、これからの多くの取組について各連携機関が強みを発揮できる分野・興味を持つ分野が明確化されたことを示しており、これからの連携機関間で共有が深化すること、さらには地域での産官学連携を強化することに対して、有効に活用でき、次年度以降の改善に大いに役立てることができるのではないかと考えています。

一方、次年度以降、改善できる点として大きく 2 つ挙げられます。

先ずは、PF 事業の運営全般について、事業計画の決定が遅かったことや目標設定に問題があったこともあると思いますが、事業の目的が個別の取組事業を行うことのみ、そして設定した数値目標の達成といった、近視眼的な対応になってしまったのではないかということです。事業活動を行うこと自体、そして数値目標の達成も、地域の活性化や地域の魅力を高める手段であり、目的ではないので、1）次年度は各ワーキングにおいて、地域の活性化や魅力向上について語り合い、共通認識を持って事業計画を立てること、2）自治体や産業界の状況を本年度以上に聞きながら、取組事業の選定基準を明確にすることで、次年度以降実施する事業のスリム化や事業間の連動性が高まると思われます。

次に、個別の取組事業に関して、事業開始年度ということもあり、各連携機関がこれまで

行ってきた事業を事業として実施することが多いため、複数の連携機関で計画・実施するための連携関係の構築が乏しいものが散見されました。よって、次年度以降、1) 各ワーキングの取組テーマを明確にすること、2) 取組事業の選定段階で複数の関係機関で協議などが可能なものを優先することで、関係機関の連携を強めることができますと思います。

さらに、地域の活性化ということでは各連携機関が持つ教育資源を活用できている点は素晴らしいことです。しかし、全ての事業計画を各連携機関が立案する負担も大きいのも事実だと思います。故に、地域の課題に取り組む団体等は協議会に加盟する機関以外の団体等も存在しているので、幅広く地域団体の取組を支援するといった「地域の知恵」を借りる姿勢を持つことで、地域住民の参加者を増やすきっかけ作りに役立ててもらえればと思います。貴重な大学の財源を活用して地域の活性化に努める本取組事業の性格を考え、地域を活用し地域との距離感が近くなる教育改善につなげていただければと思います。

最後に、次年度以降 本 PF 事業が再採択されたことは、リーダー校(長浜バイオ、聖泉大学、滋賀文教短期大学)が、他の国公立大学、各自治体、政財界の協力のもと、3 つのワーキンググループの取組みに対し、リーダー校会議、さらには協議会など、定期的にかつ高頻度で開催され、個々だけでなく、お互いの情報交換のもと、すべてにおいて真摯に取り組まれたことによるものであり、大いに評価できるものであります。さらに、次年度以降の評価を安定化させるためには、評価基準の高いもの、例えば、大学間での単位互換、SDGs をテーマにした共同講義科目の開設、共同での IR 実施、共同 FD/SD 講座の頻度向上、などを考慮しながら取り組むべきことと思われます。

(3) 外部評価委員による評価と提言

外部評価委員（下記の4名）による外部評価を兼ねた成果報告会（2020年3月5日）を実施した。本年度の取組事業の総括及び協議会を構成するすべての連携機関による実施例報告を行い、外部評価委員より取組に対する評価と提言がなされた。

外部評価委員

- ・仁連 孝昭 氏（環びわ湖大学・地域コンソーシアム顧問）
- ・田中 紹貴 氏（滋賀銀行 営業統括部地域振興室長）
- ・北川 貢造 氏（長浜市教育委員会 元教育長）
- ・長屋 光彦 氏（長浜市教育委員会 教育指導課主幹）

【 評価 】

<プラットフォーム事業全体について>

- 地域の産官学連携による当該地域の学術文化教育基盤形成を目的とする試みは、従前この地域では全くない取り組みであり、当該地域の今後の地域づくりに大きなインパクトを与えるものと期待される。
- 彦根長浜地域の5大学および行政、産業界でスタートした協議会は当初から想像以上に多彩な活動を繰り広げていることにまず敬意を表したい。スタート当初からこのような積極的な活動の広がりを実現できたのは、連携諸団体のポテンシャルが高いことを表している。その点からすると、当協議会が連携機関として大きな成果を生み出す可能性は非常に大きいと言える。協議会の連携支援を通じてそれぞれの活動の相乗効果が生まれることを期待する。
- 大学が事業の核となることにより、初年度より、各大学の自由で先見性のある学問研究の特色・専門性、『大学力』を活かした多様且つ、ユニークな事業が展開されている。
- このプラットフォーム事業は、希有且つ、優れた事業であり、事業終了後もこの地域で、そのノウハウや事業そのものが継承発展されていく方向性を期待したい。
- 私学に配当される予算を協議会に集約し、事業運営を行う仕組みは大変有効である。

<WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業について>

- 事業について順調に進められている。
- 産官学連携事業では、ビワトロマスの取組みは特筆すべき取組みであり、SDGsに相応しい、課題解決に向けた取組みであると感じた。バイオ系で地元企業と連携した新産業創出のお手本となる取り組み。質としては評価“A”であると感じた。今後、同取組みをきっかけに、同校及び他の地元連携大学への波及を期待したい。また、他大学ではバイオ系に限らず、ソーシャル系でも地元企業と連携して新産業創出に取り組むことが出来る(事例、龍谷大学)ことを理解して頂ければ、より多くの産業創出に繋がると感じた。インターシップの取組みも、非常にレベルが高い。参加事業所数・参加学生数ともに良好な進捗である。

- インターシップの取組みも、非常にレベルが高いと感じた。参加事業所数・参加学生数ともに良好な進捗。今後は参加数とともに、より質を高めた取組みを期待したい。特に、セミナー等での経営者との接点は重要であると感じております。企業紹介ではなく、経営者の『生き様』が語れる場が設けられれば、地域企業への理解が深まるのではないかと日々感じております。

<WG-B 地域コミュニティの活性化事業について>

- ネットワーク推進事業の5大学の学生が一堂に会する地域活動報告会は、学生間の交流が図られるとともに、持続発展可能な地域社会の実現に向けて魅力ある取組みだと感じた。
- 各取組み項目の良好な進捗もさることながら、講座ごとの工夫を特に感じた。健康づくりリーダー養成講座(中級編)では“交流で学ぶ”“仲間と学ぶ”等の新たな手法が取入れ、まさに評価“A”に相応しい内容であると感じた。

<WG-C 地域を担う次世代人材の育成事業について>

- 幅広い対象者に向けたさまざまな事業を実施されている。
- 幼～高の学習支援事業については、長浜彦根地域でも学べる・長浜彦根地域だからこそ学べる魅力ある事業を今後も期待したい。このような事業を展開することが地域内進学・就職促進につながっていくものと考える。
- 単位互換事業の活用により工夫ある取組みが出来ていると感じる。見事、SDGsをテーマにした共通科目を開発され、増加数は及ばなかったが受講生は着実に増えており、今後の地道な継続を望みたい。特に、大学間の生徒への周知は、早期のアピールや各校の先生方・学生を巻き込んだ取組み等で改善を目指して頂ければと感じる。それぞれの講義がすばらしい取組みであると感じる。その価値がより普及される様に、前年度講義の様子が次年度以降にも解り易く伝わる様に、各大学間での情報共有とアウトプットに期待したい。

【 提言 】

<達成目標 (KGI)・活動指標 (KPI) 及び将来像について>

- 協議会のビジョンは地域の抱えている社会課題に正面から取り組むものであり、高く評価できる。これらは今直ちに実現することができなくても、将来の目指すべき姿についてのほとんどあらゆる機関、住民が合意できるビジョンであると同時に、明確な地域の進むべき方向性を示している。そして、このビジョンを実現するために産官学の連携が欠かせないことも明らかである。

しかし、このビジョンを実現するために設定された KPI と KGI にいくつか混乱が見られる。もともと KGI はビジョン実現のために設けられるチェックのための指標であり、これらを至上目的にする必要はなく、事業の進行につれて適宜見直しに行くべきものである。1年度目の事業を検証しながら見直しをすることを勧めたい。将来のビジョンの実現に向けて、目標年度にどこまでのパフォーマンスを実現するのかを

適切な指標で示すのが KPI であり、アウトプットではなくアウトカムになる指標を挙げなくてはならない。そして、目標年度に達成すべきパフォーマンス（アウトカム）を実現するために、取組む事業の達成程度を示す指標が KGI となり、それはアウトプット指標である。実はアウトプットを示す数値指標は得やすいのであるが、アウトカムを示す数値指標を得ることは容易ではないので、KGI に挙げるべきものを苦し紛れに KPI の指標にしてしまうことが往々にしてある。「地域コミュニティ活性化事業」と「地域を担う次世代人材育成事業」において、KPI の指標にふさわしくないものが見られた。

- 当初設定した KPI が初年度に達成された事業分野があるが、そのような場合は、5 年度目の目標としての KPI を改めて検討すべきである。KGI についても、ビジョン達成のために有効な事業となっているのかを常に見直していく必要がある。KPI と KGI はあくまでも掲げたビジョン達成のための指標であり、これらの指標を達成することを自己目的ではなく、あくまでもビジョン達成のための道のりを示すものであることを十分自覚して進捗管理をしていただきたい。
- 各 WG の達成目標（KGI）及び活動指標（KPI）は、かなり高いレベルに設定されているのではないかと、設定に固執されず且つ、蔑ろにされないために、中間年あたりで取捨選択による重点化、新たな設定等柔軟に対応されることが大事なのではないか。
- 目指すべき将来像 4 項目の設定はそれぞれ適切であるが、今日のこの国の低俗な文化環境を考えると、今ひとつ、子どもから大人までのすべての地域住民が、伝統文化から現代文化に至るまで、豊かな文化・芸術環境を享受し、住民自らが担う地域創造にかかる将来像の設定があってもいいのではないかと。

<連携協議会について>

- この事業の推進運営の組織上の核である連携協議会について、彦根長浜地域であるならば、その中間地域の米原市及び米原産業関係機関の参画もあっていいのではないかと。また、地域の教育・福祉・文化等民間団体の参画はどうであろうか。
- 大学は、研究及び教育人材育成機関であり、また産業界も自己存立のため研究・人材育成に尽力されているが、官における研究・人材育成力は、とりわけ地方公共団体においては脆弱なのではないか、今回の事業は地域を前提とした取り組みであり、総合的な地域創造の核である官＝地方公共団体の『研究・人材育成力を高める』ための取り組みがあってもいいのではないかと。

<プラットフォーム事業全体について>

- 今年度はスタートアップ型で体制を整備し事業実施を進めてこられたが、次年度以降は WG の横の繋がりを意識し、改革のビジョンに向けた中長期的な取組を進めていけるとよい。
- すべての WG に共通して言えることだが、事業実施が目的にならないよう、改革のビジョンにある地域社会の姿を実現するための事業展開を期待したい。
- この事業は大学が核になっていることであり、その点で、学生の皆さんが事業の対象ではなく、事業の担い手となる運営執行体制があってもいいのではないかと、特に、WG-

B（地域コミュニティの活性化事業）及びWG-C（地域を担う次世代人材の育成事業）において、学校園や施設、地域及び子ども対象の事業にあつては、十分に担っていただけ、且つ、より有効な側面もあるのではないかと、また学生の皆さん自身にとっても貴重な体験となり、大学における自己の学問研究及び自己の生き方に活かされるのではないかと。

- 各WGの事業における公開講座について、テーマの設定がすべてではないかと、地域の人々の興味関心もいろいろ、大学力を活かした重厚で骨太、時代を切り拓くといったテーマ設定もあつていいのではないかと、「県立大学で『人間学』を学ぶ」をテーマの講座4回に、いずれも100名を超える参加者が報告されている。市民一般対象の講座に加え、対象者を限定した講座があつてもいいのではないかと。

<WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業について>

- 今年度作成された連携大学の研究紹介ハンドブックの効果的な活用、インターンシップ採用活動支援の充実を期待したい。
- 産官学連携ハンドブックの取組みにより、今後の地域への周知を期待したい。また、今後の連携増加の為には、いかに地元の企業に、幅広く理解して貰えるかが肝要であると感じました。その仕組みづくりに知恵を絞って頂ければと思います。

<WG-B 地域コミュニティの活性化事業について>

- ネットワーク推進事業の5大学の学生が一堂に会する地域活動報告会は、今後は学生間の交流に留まらず、地域等に積極的に発信していけるとよい。
- 今後、まちづくり活動や地域課題に取り組む活動へ参加された学生の方々の意見（どのように感じたか？今後どのような改善が可能か？等々）を取入れ、学生の皆さんの自主性が育まれるとともに、PDCAを廻すことにより、次の世代の学生の皆様にも繋げられる継続的な仕組みづくりを期待しております。
- 健康づくりリーダー養成講座のように、事業参加された受講者が地域における推進役となって活躍できるようなところまで系統的に事業展開できるとよい。

<WG-C 地域を担う次世代人材の育成事業について>

- せっかく得られた情報（滋賀論・地域内進学促進情報交換会等々）は蓄積と地域内の情報共有により、地域活性化に繋がる次への展開や有効な場面での活用を是非ともお願いしたいと思います。

以上の外部評価委員からの貴重なご提言を、次年度以降の取組事業計画の段階から意識的に検討し、SDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現するという目標達成に向け真摯に取り組んでいきたい。

2020 年 2 月
2020 年 3 月（確定版）

彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業連携協議会
（長浜バイオ大学・地域連携・産官学連携推進室内）

〒526-0829 滋賀県長浜市田村町 1266 番地

TEL : 0749-64-8133

FAX : 0849-64-8140

Mail : chiiki.jimu@nagahama-i-bio.ac.jp